



show dial-peer ~ show gatekeeper zone prefix

- [show dial-peer](#) (3 ページ)
- [show dial-peer video](#) (4 ページ)
- [show dial-peer voip keepalive status](#) (6 ページ)
- [show dial-peer voice](#) (9 ページ)
- [show dialplan dialpeer](#) (21 ページ)
- [show dialplan incall](#) (27 ページ)
- [show dialplan incall uri](#) (30 ページ)
- [show dialplan in-carrier](#) (37 ページ)
- [show dialplan in-trunk-group-label](#) (39 ページ)
- [show dialplan number](#) (41 ページ)
- [show dialplan uri](#) (44 ページ)
- [show dn-numbers](#) (47 ページ)
- [show dspfarm](#) (49 ページ)
- [show dspfarm profile](#) (56 ページ)
- [show dsp-group](#) (60 ページ)
- [show echo-cancel](#) (62 ページ)
- [show event-manager consumers](#) (64 ページ)
- [show frame-relay vofr](#) (66 ページ)
- [show gatekeeper calls](#) (68 ページ)
- [show gatekeeper circuits](#) (71 ページ)
- [show gatekeeper cluster](#) (73 ページ)
- [show gatekeeper endpoint circuits](#) (74 ページ)
- [show gatekeeper endpoints](#) (76 ページ)
- [show gatekeeper gw-type-prefix](#) (80 ページ)
- [show gatekeeper performance statistics](#) (83 ページ)
- [show gatekeeper servers](#) (87 ページ)
- [show gatekeeper status](#) (90 ページ)
- [show gatekeeper status cluster](#) (92 ページ)
- [show gatekeeper zone cluster](#) (93 ページ)

- [show gatekeeper zone prefix](#) (94 ページ)
- [show gatekeeper zone status](#) (96 ページ)

show dial-peer

ダイヤルプランマッピングテーブルを表示するには、特権 EXEC モードで **show dial-peer** コマンドを使用します。

show dial-peer {carrier | cor | trunk-group-label}

構文の説明		
	carrier	ピアプロトコルのキャリア ID 設定を詳細に表示します。
	cor	制限設定クラスの詳細を表示します。
	trunk-group-label	トランクグループラベルの設定を詳細に表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(17)SX	このコマンドが導入されました。
	12.4(22)T	Cisco IOS リリース 12.4(22)T よりも前のリリースにおいて、このコマンドが変更されました。キーワード carrier および trunk-group-label が追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドおよび使用可能なキーワードを併用すると、プロトコルピアのダイヤルプランマッピングテーブルを表示できます。

例

次に示す **show dial-peer** コマンドの出力例は、制限設定クラスの詳細を表示したものです。フィールドの説明は自明のため省略します。

```
Router# show dial-peer cor
Class of Restriction
name: class1
```

show dial-peer video

ビデオダイヤルピアの設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show dial-peer video** コマンドを使用します。

show dial-peer video [*number*] [*summary*]

構文の説明	<i>number</i>	(任意) 特定のビデオダイヤルピア。出力には、ここで指定したダイヤルピアに関する情報が表示されます。
	<i>summary</i>	(任意) 出力には、各ビデオダイヤルピアの要約情報が 1 行ずつ表示されます。

コマンド デフォルト 引数 *name* とキーワード **summary** の両方を省略すると、コマンド出力にはすべてのビデオダイヤルピアに関する詳細情報が表示されます。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.0(5)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、1 つのルータに設定されているすべてのビデオダイヤルピアの設定を表示できます。特定の単一ダイヤルピアの設定情報のみを表示するには、*number* 引数を使用してダイヤルピアを指定します。

例

次の出力例は、設定されたすべてのビデオダイヤルピアに関する詳細情報を表示したものです。

```
Router# show dial-peer video
Video Dial-Peer 1
  type = videocodec, destination-pattern = 111
  port signal = 1/0, port media = Serial1
  nsap = 47.0091810000000050E201B101.00107B09C6F2.C8
Video Dial-Peer 2
  type = videoatm, destination-pattern = 222
  session-target = ATM0 svc nsap 47.0091810000000050E201B101.00E01E92ADC2.C8
Video Dial-Peer 3
  type = videoatm, destination-pattern = 333
  session-target = ATM0 pvc 70/70
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 1 : *show dial-peer video* のフィールドの説明

フィールド	説明
NSAP	ネットワーク サービス アクセス ポイント (NSAP) アドレス

show dial-peer voip keepalive status

ダイヤルピアで `options-keepalive` が設定されている場合に、接続先のステータスを表示するには、特権 EXEC モードで `show dial-peer voip keepalive status` コマンドを使用します。

`show dial-peer voip keepalive status [dp-tag | tenant tenant-tag | <cr>]`

<code>dp-tag</code>	ダイヤルピアタグ。範囲は 1 ~ 1073741823 です。
<code>tenant-tag</code>	テナントのキープアライブステータス情報。範囲は 1 ~ 10000 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Cupertino 17.9.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで `voice-class sip options-keepalive profile` コマンドを使用して `options-keepalive` が設定されている場合、このコマンドを使用すると接続先のステータスを確認できます。このコマンドを使用すると、個々のセッションターゲット別およびサーバーグループ別に `options keepalive` のステータスを表示できます。キープアライブステータスは、IPv4、IPv6 および DNS 形式の接続先で表示できます。



(注) CUBE では、ダイナミックダイヤルピアのステータスは表示されません。

接続先が DNS SRV として設定されている場合、CUBE では各レコードのステータスが保持されます。たとえば、DNS SRV ルックアップの結果 4 つのレコードが得られた場合、この 4 つのレコードそれぞれのステータスが表示されます。複数の接続先を含むセッションサーバーグループの場合は、このコマンドでは各ターゲットのキープアライブステータスが表示されません。

さらにコマンド出力を、`tenant-tag` および `dp-tag` でフィルタリングすることもできます。

このコマンドで表示されるダイヤルピアの各種 **STATUS** には、次が含まれます。

- **active** — 当該ダイヤルピアはアクティブであり、CUBE によってコール処理のルーティングに使用可能であるとみなされる接続先が含まれています。
- **busyout** — 当該ダイヤルピアは非アクティブであり、現在使用可能な適切な接続先がありません。
- **partial** — 同一グループ内で少なくとも 1 つの接続先がアクティブであり、残りの接続先が非アクティブ (`busyout`) である場合、このダイヤルピアは部分的にアクティブと表示されます。

- **NA** — コマンド **voice-class sip options-keepalive profile** が設定されていないため、ステータスを表示できません。

コマンドで表示される接続先別の各種 **STATUS** には、次が含まれます。

- **active** — 当該接続先は CUBE で使用可能な状態です。
- **busyout** — キープアライブの再試行回数が上限に達すると、その接続先は非アクティブとして表示されます。



(注) 同一の SRV 接続先を持つ各ダイヤルピアには、同一の転送タイプを設定する必要があります。

例

次に、**options-keepalive** が設定されているダイヤルピアに関して、このコマンドを使用して当該ダイヤルピアの接続先ステータスを表示した出力例を示します。

```
router#show dial-peer voip keepalive status
TAG          TENANT  DESTINATION          OOD-SessID  PRI    WT    STATUS
6            4       dns:company.com      0            10    50    partial
            company1.com          437     10    50    active
            ipv4:10.105.34.88:8788
            company2.com*  0        10    50    busyout
8            -       dns:ex.company.com   438          10    50    active
            example1.com         438          10    50    active
            ipv4:10.105.34.88:8790
            example2.com  439          10    50    active
            ipv4:10.64.86.70:8789
9            3       ipv4:10.64.86.70:8073 1             -     -     busyout
10           -       sess-svr-grp:1
            ipv4:10.105.34.88:8071 2             -     -     busyout
            ipv4:10.105.34.88:8072 3             -     -     busyout
            ipv4:10.105.34.88:8073 4             -     -     busyout
11           -       dns:demo3.com        440          -     -     active
            ipv4:10.64.86.70:5060
12           -       dns:demo_failed.com*
13           -       dns:demo4.com
            example3.com          441     10    50    active
            ipv4:10.105.34.88:8792
            example4.com*  0        10    50    busyout
```

Note: For destinations that are marked with (*), DNS resolution has failed.

router#

関連コマンド

コマンド	説明
show voice class sip-options-keepalive	CUBE VoIP ダイアルピアと SIP サーバー間の接続の詳細を表示します。

show dial-peer voice

音声ダイヤルピアの情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show dial-peer voice** コマンドを使用します。

show dial-peer voice [*number* | **busy-trigger-counter** | **summary** | **voip system**]

構文の説明	
<i>number</i>	(任意) 特定の音声ダイヤルピア。出力には、ここで指定したダイヤルピアに関する詳細情報が表示されます。
busy-trigger-counter	(任意) 当該 VoIP ダイヤルピアのビジートリガーコール数を表示します。
summary	(任意) 各音声ダイヤルピアの簡潔な要約情報を表示します。
voip system	(任意) VoIP ダイヤルピアに関する情報を表示します。

コマンドデフォルト 引数 *number* とキーワード **summary** の両方を省略すると、出力にはすべての音声ダイヤルピアに関する詳細情報が表示されます。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(1)T	このコマンドが導入されました。
	11.3(1)MA	このコマンドが変更されました。キーワード summary が Cisco MC3810 に追加されました。
	12.0(3)XG	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの Voice over Frame Relay (VoFR) に導入されました。
	12.0(4)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズの VoFR に導入されました。
	12.1(3)T	このコマンドが、Cisco AS5300 の VoIP を介したモデムパススルーに導入されました。
	12.2(2)XB	このコマンドが変更され、VoiceXML アプリケーションをサポートするようになりました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745 に導入されました。

リリース	変更内容
12.2(2)XN	このコマンドが変更されました。拡張 Media Gateway Control Protocol (MGCP) 音声ゲートウェイの相互運用性のサポートが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco VG200 の Cisco CallManager 3.1 に追加されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T および Cisco CallManager 3.2 に統合され、Cisco IAD2420 に導入されました。このコマンドが拡張され、帯域幅、ビデオコーデック、および H.263+ ビデオコーデックと H.264 ビデオコーデックの rtp ペイロードタイプの各設定情報が表示されるようになりました。
12.4(22)T	このコマンドが変更されました。このコマンドが拡張され、history-info ヘッダーの現在の設定状態が表示されるようになりました。コマンド出力が更新され、IPv6 情報が表示されるようになりました。
15.0(1)XA	このコマンドが変更されました。出力内容が拡張され、発信コールの論理パーティショニング制限クラス (LPCOR) ポリシーが表示されるようになりました。
15.1(1)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 15.1(1)T に統合されました。
15.1(3)T	このコマンドが変更されました。出力内容が拡張され、ダイヤルピア別のバインドに関する情報、および Foreign Exchange Office (FXO) ポートの接続ステータスが表示されるようになりました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.9.1a	このコマンドが変更されました。出力内容が拡張され、ダイヤルピアの OPTIONS ping キープアライブステータスが表示されるようになりました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、1つのゲートウェイに設定されているすべての VoIP ダイヤルピアおよび POTS ダイヤルピアの設定を表示できます。特定の単一ダイヤルピアの設定情報のみを表示するには、*number* 引数を使用します。すべてのダイヤルピアの要約情報を表示するには、キーワード **summary** を使用します。



(注) Cisco UBE でコールシグナリングに RSVP が設定されていない場合に、シグナリングパケットおよびメディアパケットに付与される QoS 設定を確認するには、**show dial-peer voice** コマンドを使用することが推奨されます。

例

次に、POST ダイヤルピアに対する **show dial-peer voice** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show dial-peer voice 100
VoiceEncapPeer3201
peer type = voice, information type = video,
```

```

description = '',
tag = 3201, destination-pattern = `86001',
answer-address = '', preference=0,
CLID Restriction = None
CLID Network Number = ''
CLID Second Number sent
CLID Override RDNIS = disabled,
source carrier-id = '', target carrier-id = '',
source trunk-group-label = '', target trunk-group-label = '',
numbering Type = `unknown'
group = 3201, Admin state is up, Operation state is up,
Outbound state is up,
incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
URI classes:
    Destination =
huntstop = disabled,
in bound application associated: 'DEFAULT'
out bound application associated: ''
dnis-map =
permission :both
    incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
incoming call blocking:
translation-profile = ''
disconnect-cause = `no-service'
advertise 0x40 capacity_update_timer 25 addrFamily 4 oldAddrFamily 4
type = pots, prefix = '',
forward-digits 4
session-target = '', voice-port = `2/0:23',
direct-inward-dial = enabled,
digit_strip = enabled,
register E.164 number with H323 GK and/or SIP Registrar = TRUE
fax rate = system, payload size = 20 bytes
supported-language = ''
preemption level = `routine'
bandwidth:
    maximum = 384 KBits/sec, minimum = 64 KBits/sec
voice class called-number:
    inbound = '', outbound = `1'
Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
    Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.

```

次に、VoIP ダイアルピアに対するこのコマンドの出力例を示します。

```

Router# show dial-peer voice 101
VoiceOverIpPeer101
peer type = voice, system default peer = FALSE, information type = voice,
description = '',
tag = 1234, destination-pattern = '',
voice reg type = 0, corresponding tag = 0,
allow watch = FALSE
answer-address = '', preference=0,
CLID Restriction = None
CLID Network Number = ''
CLID Second Number sent

```

```

CLID Override RDNIS = disabled,
rtp-ssrc mux = system
source carrier-id = '', target carrier-id = '',
source trunk-group-label = '', target trunk-group-label = '',
numbering Type = 'unknown'
group = 1234, Admin state is up, Operation state is down,
incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
modem transport = system,
URI classes:
Incoming (Request) =
Incoming (Via) =
Incoming (To) =
Incoming (From) =
Destination =
huntstop = disabled,
in bound application associated: 'DEFAULT'
out bound application associated: ''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
outgoing LPCOR:
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
incoming call blocking:
translation-profile = ''
disconnect-cause = 'no-service'
advertise 0x40 capacity_update_timer 25 addrFamily 4 oldAddrFamily 4
mailbox selection policy: none
type = voip, session-target = '',
technology prefix:
settle-call = disabled
ip media DSCP = ef, ip media rsvp-pass DSCP = ef
ip media rsvp-fail DSCP = ef, ip signaling DSCP = af31,
ip video rsvp-none DSCP = af41, ip video rsvp-pass DSCP = af41
ip video rsvp-fail DSCP = af41,
ip defending Priority = 0, ip preemption priority = 0
ip policy locator voice:
ip policy locator video:
UDP checksum = disabled,
session-protocol = sipv2, session-transport = system,
req-qos = best-effort, acc-qos = best-effort,
req-qos video = best-effort, acc-qos video = best-effort,
req-qos audio def bandwidth = 64, req-qos audio max bandwidth = 0,
req-qos video def bandwidth = 384, req-qos video max bandwidth = 0,
RTP dynamic payload type values: NTE = 101
Cisco: NSE=100, fax=96, fax-ack=97, dtmf=121, fax-relay=122
CAS=123, TTY=119, ClearChan=125, PCM switch over u-law=0,
A-law=8, GSMAMR-NB=117 iLBC=116, AAC-ld=114, iSAC=124
lmr_tone=0, nte_tone=0
h263+=118, h264=119
G726r16 using static payload
G726r24 using static payload
RTP comfort noise payload type = 19
fax rate = voice, payload size = 20 bytes
fax protocol = system
fax-relay ecm enable
Fax Relay ans enabled
Fax Relay SG3-to-G3 Enabled (by system configuration)
fax NSF = 0xAD0051 (default)
codec = g729r8, payload size = 20 bytes,
video codec = None
voice class codec = ''

```

```

voice class sip session refresh system
voice class sip rsvp-fail-policy voice post-alert mandatory keep-alive interval 30
voice class sip rsvp-fail-policy voice post-alert optional keep-alive interval 30
voice class sip rsvp-fail-policy video post-alert mandatory keep-alive interval 30
voice class sip rsvp-fail-policy video post-alert optional keep-alive interval 30
text relay = disabled
Media Setting = forking (disabled) flow-through (global)
Expect factor = 10, Icpif = 20,
Playout Mode is set to adaptive,
Initial 60 ms, Max 1000 ms
Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
Fax nominal 300 ms
Max Redirects = 1, signaling-type = cas,
VAD = enabled, Poor QOV Trap = disabled,
Source Interface = NONE
voice class sip url = system,
voice class sip tel-config url = system,
voice class sip rel1xx = system,
voice class sip anat = system,
voice class sip outbound-proxy = "system",
voice class sip associate registered-number = system,
voice class sip asserted-id system,
voice class sip privacy system
voice class sip e911 = system,
voice class sip history-info = system,
voice class sip reset timer expires 183 = system,
voice class sip pass-thru headers = system,
voice class sip pass-thru content unsupp = system,
voice class sip pass-thru content sdp = system,
voice class sip copy-list = system,
voice class sip g729 annexb-all = system,
voice class sip early-offer forced = system,
voice class sip negotiate cisco = system,
voice class sip block 180 = system,
voice class sip block 183 = system,
voice class sip block 181 = system,
voice class sip preloaded-route = system,
voice class sip random-contact = system,
voice class sip random-request-uri validate = system,
voice class sip call-route p-called-party-id = system,
voice class sip call-route history-info = system,
voice class sip privacy-policy send-always = system,
voice class sip privacy-policy passthru = system,
voice class sip privacy-policy strip history-info = system,
voice class sip privacy-policy strip diversion = system,
voice class sip map resp-code 181 = system,
voice class sip bind control = enabled, 9.42.28.29,
voice class sip bind media = enabled, 9.42.28.29,
voice class sip bandwidth audio = system,
voice class sip bandwidth video = system,
voice class sip encap clear-channel = system,
voice class sip error-code-override options-keepalive failure = system,
voice class sip calltype-video = false
voice class sip registration passthrough = System
voice class sip authenticate redirecting-number = system,
redirect ip2ip = disabled
local peer = false
probe disabled,
Secure RTP: system (use the global setting)
voice class perm tag = `
Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,

```

```
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Last Disconnect Time = 0.
When there is no Dial-peer level bind -
voice class sip bind control = system,
voice class sip bind media = system,
```

次に示す **show dial-peer voice summary** コマンドの出力例では、接続された FXO ポート 0/2/0 (最後のエントリ) の OUT STAT が「up」と表示されています。これは、当該 POTS ダイアルピアが発信コールに使用できる状態であることを意味します。このポートの接続が切断された場合、出力のステータスが変化して OUT STAT フィールドが「down」に変わり、当該 POTS ダイアルピアが発信コールに使用できない状態であることを示します。



- (注) Cisco IOS リリース 15.1(3)T 以降 FXO ポートステータスのモニタリングが改善され、FXO ポートが接続または接続解除されるたびにステータスの変化を示すメッセージが表示されるようになりました。たとえば、ケーブルが接続されたことを報告するメッセージ（「000118: Jul 14 18:06:05.122 EST: %LINK-3 -UPDOWN: インターフェイス Foreign Exchange Office 0/2/0、ケーブル再接続により動作ステータス状態を変更しました」）が表示されるとともに、FXO ポート 0/2/0 のステータスが「up」に変更されます。

```
Router# show dial-peer voice summary
dial-peer hunt 0
          AD
TAG   TYPE  MIN  OPER PREFIX  DEST-PATTERN  PRE PASS  OUT
          FER THRU SESS-TARGET  STAT PORT
KEEPALIVE
39275- voip  up   up    .T           0  syst ip4:172.18.108.26
82
8880  pots  up   up    8880         0                   up   2/0/0
8881  pots  up   up    8881         0                   up   2/0/1
8882  pots  up   up    8882         0                   up   2/0/2
8883  pots  up   up    8883         0                   up   2/0/3
8884  pots  up   up    8884         0                   up   2/0/4
8885  pots  up   up    8885         0                   up   2/0/5
8886  pots  up   up    8886         0                   up   2/0/6
8887  pots  up   up    8887         0                   up   2/0/7
88888- pots  up   up    88888        0                   down 0/3/0:23
888
65033- pots  up   up    6503352      0                   up   0/2/0
52
```

次の表で、上記の出力に表示される重要なフィールドをアルファベット順に説明します。

表 2: *show dial-peer voice* のフィールドの説明

フィールド	説明
Accepted Calls	システムの起動以降に、このダイアルピアから受け入れられたコールの数。

フィールド	説明
acc-qos	このピアのコールに設定されている、許容できる最低のサービス品質。
Admin state	このピアの管理状態。
answer-address	このダイヤルピアに設定された応答アドレス。
bandwidth maximum/minimum	最大帯域幅と最小帯域幅 (Kb/s)。
Charged Units	システム起動時以降、このピアに適用された課金単位の合計数 (100 分の 1 秒単位)。
CLID Restriction	発信側回線 ID (CLID) の制限が有効になっているかどうかを示します。
CLID Network Number	(設定されている場合) CLID として送信されるネットワーク番号を表示します。
CLID Second Number sent	コールセットアップで 2 番目の発信番号が削除されているかどうかを表示します。
CLID Override RDNIS	CLID がリダイレクト番号でオーバーライドされているかどうかを示します。
codec	デフォルトの音声コーデックレート。
Connect Time	着信コールと発信コールの両方を含む、システム起動以降の当該ピアとの累積接続時間 (100 分の 1 秒単位)。
connections/maximum	ピアごとの最大コール接続数を表示します。
Destination	宛先 URL の照合に使用する音声クラスを示します。
destination-pattern	このピアの宛先パターン (電話番号)。
digit-strip	桁の削除が有効になっているかどうかを示します。
direct-inward-dial	ダイヤルイン方式が有効になっているかどうかを示します。
disconnect-cause	着信がブロックされたときに使用される切断原因コードを示します。
dnis-map	着信番号識別サービス (DNIS) マップ名。
DTMF Relay	デュアルトーン多重周波数 (DTMF) リレーが有効になっているかどうかを示します。
Expect factor	このピアを介したコールにおける音声品質の期待係数 (ユーザー要求)。

フィールド	説明
Failed Calls	システムの起動以降、このピアに対する失敗したコール試行の数。
fax rate	このピアに設定されたファクス送信レート。
forward-digits	このピアから転送される接続先番号を示します。
group	このピアに関連付けられたグループ番号。
huntstop	huntstop コマンドで、このダイヤルピアのダイヤルピアハンティングがオンに設定されているかどうかを示します。
Icpif	ダイヤルピアにより送信されるコールに設定された計画劣化係数の算出値 (ICPIF)。
in bound application associated	このダイヤルピアへの着信コールを処理するように設定された自動音声応答 (IVR) アプリケーション。
in call-number	当該ダイヤルピアを識別するために使用される完全な E.164 電話番号。
incoming call blocking	このピアの着信コールのブロッキング設定を示します。
incoming called-number	(設定されている場合) 着信コール番号を示します。
incoming COR list	このピアの着信コールに対する制限クラスのレベルを示します。
Incomplete Calls	切断された発信コールのうち、原因コードがユーザビジー (17)、ユーザ応答なし (18) または応答なし (19) であったコール数を示します。
information type	このコールの情報タイプ (音声、ファクス、ビデオ)。
Last Disconnect Cause	前回のコールに関連付けられたエンコード済みのネットワーク原因。この値は、コールが開始またはクリアされるたびに更新され、インターフェイスタイプと当該インターフェイスで使用されているセッションプロトコルにより異なります。
Last Disconnect Text	前回コールが終了した理由を説明する ASCII テキスト。
Last Setup Time	このピアへの前回コール開始時点におけるシステム稼働時間の値。
Modem passthrough	モデム パススルー シグナリング方式は、Named Signaling Event (NSE) です。
numbering Type	ピアコールレグの番号タイプを示します。

フィールド	説明
Operation state	このピアの動作状態。
outgoing COR list	このピアの発信コールに対する制限クラスのレベルを示します。
outgoing LPCOR	lpcor outgoing コマンドの設定。
out bound application associated	このダイヤルピアからの発信コールを処理するように設定された音声アプリケーション。発信コールは、ここで指定されているアプリケーションにハンドオフされます。
Outbound state	POTS ピアの現在のアウトバウンドステータスを示します。
payload size	ファクスレートまたはコーデックセットアップのペイロードサイズ (バイト単位) を示します。
payload type	NSE ペイロードタイプ。
peer type	ダイヤルピアタイプ (音声、データ)。
permission	このピアに設定された権限レベル。
Poor QOV Trap	音声トラップメッセージで低品質が有効になっているかどうかを示します。
Preemption level	このピアのコールプリエンプションレベルを示します。
prefix	このピアのダイヤル番号のプレフィックスを示します。
Redundancy	モデムトラフィックの packets 冗長性 (RFC 2198)。
Refused Calls	システムの起動以降に拒否された、このピアからのコール数。
register E.164 number with H.323 GK and/or SIP Registrar	このピアの「register e.164」オプションを表示します。
req-qos	このダイヤルピアのコールに設定された要求されたサービス品質。
session-target	このピアのセッションターゲット。
session-protocol	IPバックボーンを介したローカルルータとリモートルータ間でのインターネットコールに使用されるセッションプロトコル。
source carrier-id	着信コールの送信元キャリアIDと照合するために使用される、このピアの送信元キャリアIDを示します。
source trunk-group label	着信コールのトランクグループレベルと照合するために使用できる、このピアのトランクグループレベルを示します。

フィールド	説明
Successful Calls	完了したこのピアへのコール数。
supported-languages	このピアでサポートされている言語の一覧表示。
tag	固有のダイヤルピア ID 番号。
target carrier-id	着信コールのターゲットキャリア ID と照合するために使用される、このピアのターゲットキャリア ID を示します。
target-trunkgroup-label	発信コールのターゲット トランク グループ ラベルと照合するために使用できる、このピアのターゲット トランク グループ ラベルを示します。
Time elapsed since last clearing of voice call statistics	clear dial-peer voice コマンド実行時刻から現在時刻までの経過時間。
Translation profile (Incoming)	着信コールのトランスレーションプロファイルを示します。
Translation profile (Outgoing)	発信コールのトランスレーションプロファイルを示します。
translation-profile	このピアの番号トランスレーションプロファイルを示します。
type	このピアのカプセル化タイプを示します (pots、voip、vofr、voatm または mmoip)。
VAD	このダイヤルピアで音声アクティベーション検出 (VAD) が有効になっているかどうか。
voice class called-number inbound/outbound	このピアに設定されたインバウンドまたはアウトバウンドの音声クラス着信番号を示します。
voice-class sip history-info	history-info ヘッダーの設定状態を示します。当該ダイヤルピアに history-info ヘッダーが設定されていない場合は、このフィールドには system と出力されます。当該ダイヤルピアで history-info ヘッダーが有効になっている場合、このフィールドには enable と出力されます。当該ダイヤルピアで history-info ヘッダーが無効になっている場合、このフィールドには disable と出力されます。
voice class sip bind	バインドアドレスの設定状態を示します。バインドがグローバルに設定されている場合、このフィールドには system と出力されます。当該ダイヤルピアでバインドアドレスが有効になっている場合、このフィールドには enabled と出力されます。
voice-port	この POTS ピアの音声インターフェイス設定を示します。

次に、**summary** キーワードを指定した場合のこのコマンドの出力例を示します。

```
Router# show dial-peer voice summary
```

```
dial-peer hunt 0

TAG TYPE ADMIN OPER PREFIX DEST-PATTERN PASS THRU SESS-TARGET PORT
100 pots up up 0
101 voip up up 5550112 0 syst ipv4:10.10.1.1
102 voip up up 5550134 0 syst ipv4:10.10.1.1
99 voip up down 0 syst
33 pots up down 0
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 3: show dial-peer voice summary のフィールドの説明

フィールド	説明
dial-peer hunt	dial-peer hunt コマンドで当該ダイヤルピアに定義されているハントグループの選択順序。
TAG	ダイヤルピア作成時に当該ダイヤルピアに割り当てられた固有の識別子。
TYPE	ダイヤルピアのタイプ (mmoip、pots、voatm、vofr または voip)。
ADMIN	管理状態 (up または down)。
OPER	動作状態 (up または down)。
PREFIX	prefix コマンドによって当該ダイヤルピアに設定されたプレフィックス。
DEST-PATTERN	destination-pattern コマンドによって当該ダイヤルピアに設定された宛先パターン。
PREF	preference コマンドによって当該ダイヤルピアに設定されたハントグループ。
PASS THRU	modem passthrough コマンドによって当該ダイヤルピアに設定されたモデムパススルーメソッド。
SESS-TARGET	session target コマンドによって当該ダイヤルピアに設定された宛先。
PORT	当該ダイヤルピアに設定されたルータ音声ポート。POTS ダイヤルピアでのみ有効です。

次に示すのは、Cisco IOS XE Cupertino 17.9.1a 以降のコマンド拡張により、ダイヤルピア別に DNS SRV の全体的なキープアライブステータスを表示するようになった **show dial-peer voice summary** コマンドの出力例です。

```
Router# show dial-peer voice summary
```

```
dial-peer hunt 0
AD
TAG TYPE MIN OPER PREFIX DEST-PATTERN PRE PASS SESS-SER-GRP\ OUT
FER THRU SESS-TARGET STAT PORT
KEEPALIVE VRF
```

```

4      voip up up          1234          0 syst dns:example1.com
   active      NA
5      voip up up          123456        0 syst dns:example2.com
   partial     NA
44     voip up up          1234          0 syst dns:example3.com
   busyout     NA

```

For server-grp details please execute command: show voice class server-group <tag_id>
 To see complete session target for ipv6 use 'sh running-config | section dial-peer <tag>
 Some nodes of this target may be down. Please execute the command 'show dial-peer voip
 keepalive status' to know the exact status of each node.



- (注) 同一グループ内で少なくとも1つの接続先がアクティブであり、残りの接続先が非アクティブである場合、このダイヤルピアは部分的にアクティブ (**partial**) と表示されます。

関連コマンド

コマンド	説明
show call active voice	VoIP アクティブコールのテーブルを表示します。
show call history voice	VoIP コール履歴テーブルを表示します。
show dialplan incall number	特定の発信番号または音声ポートに一致する POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan number	特定の電話番号のダイヤル時に到達するダイヤルピアを表示します。
show num-exp	VoIP の番号拡張の設定方法を表示します。
show voice port	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

show dialplan dialpeer

制限クラス（COR）基準およびダイヤル番号に基づいて着信ダイヤルピアに一致したアウトバウンドダイヤルピアを表示するには、特権 EXEC モードで **show dialplan dialpeer** コマンドを使用します。

show dialplan dialpeer incoming-dialpeer-tag number number [timeout]

構文の説明	
incoming-dialpeer-tag	一致するアウトバウンドダイヤルピアの判別使用するダイヤルピアの COR 識別子。
number	一致するアウトバウンドダイヤルピアを判別するために COR 識別子と併用するダイヤル番号。
timeout	(任意) 可変長の宛先パターンの照合を許可します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(3)T	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの各種ルータおよび Cisco AS5800 アクセスサーバーに導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが、Cisco 1751 および Cisco 3700 シリーズの各種ルータおよび Cisco AS5300 アクセスサーバーに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをトラブルシューティングツールとして使用すると、コマンドラインで指定した CPR 基準とダイヤル番号に基づいて、着信コールと一致する発信ダイヤルピアを判別できます。ダイヤルピアに関連付けられた可変長の宛先パターンの照合を有効にするには、**timeout** キーワードを使用します。これによって、指定するダイヤルピア番号との一致が見つかる可能性を上げることができます。



(注) ルータに着信する実際の音声コールでは、指定したインバウンドダイヤルピアの着信 COR リストおよび発信される着信番号を使用して、アウトバウンドダイヤルピアが照合されます。

例

次の出力例では、ダイヤル番号 19001111 の着信コールで、ダイヤルピア 300 の着信 COR リストの一部を成す COR 基準に基づき照合した結果、IP アドレス 1.8.50.7 のアウトバウンドダイヤルピアに一致したことが示されています。

```
Router# show dialplan dialpeer 300 number 1900111
VoiceOverIpPeer900
    information type = voice,
    description = ``,
```

```

tag = 900, destination-pattern = `1900',
answer-address = `', preference=0,
numbering Type = `unknown'
group = 900, Admin state is up, Operation state is up,
incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
modem passthrough = system,
huntstop = disabled,
in bound application associated: 'DEFAULT'
out bound application associated: ''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:to900
type = voip, session-target = `ipv4:1.8.50.7',
technology prefix:
settle-call = disabled
...
Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched: 19001111 Digits: 4
Target: ipv4:1.8.50.7

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 4: *show dialplan command* のフィールドの説明

フィールド	説明
Macro Exp.	このダイヤルピアで想定される宛先パターン。
VoiceEncapPeer	入力した発信番号に関連付けられたダイヤルピア。
VoiceOverIpPeer	入力した発信番号に関連付けられたダイヤルピア。
peer type	このダイヤルピアのタイプ（音声またはデータ）。
information type	このダイヤルピアの情報タイプ（音声またはデータ）。
description	ダイヤルピアコマンド description で入力された、このダイヤルピアの追加情報。
tag	ダイヤルピアを識別する固有の番号。
destination-pattern	このダイヤルピアに設定されている宛先パターン（電話番号）。
answer-address	このダイヤルピアに設定されている応答アドレス（発信番号）。
preference	このダイヤルピアに設定されているハントグループの優先順位。
CLID restriction	このダイヤルピアに設定されている発信者 ID 制限（ある場合）を示します。

フィールド	説明
CLID Network Number	発信者 ID の送信元ネットワークを示します。
CLID Second Number sent	このダイヤルピアに転送される第2の番号（ある場合）の桁を示します。
source carrier-id	VoIP または POTS 送信元キャリアの識別子。
source trunk-group-label	VoIP または POTS 送信元トランクグループの識別子。
numbering Type	このダイヤルピアに設定されている番号スキームを識別します。
group	このダイヤルピアがメンバーとして属するダイヤルピアグループ。
Admin state	このダイヤルピアの管理状態。
Operation state	このダイヤルピアの動作状態。
incoming called-number	このダイヤルピアに設定されている着信番号（DNIS）。
connections/maximum	このダイヤルピアに関連付けられている実際の接続数および最大許容接続数。
DTMF Relay	このダイヤルピアに対して dtmf-relay コマンドが有効か無効か。
URI classes: Incoming (Request)	ダイヤルピアを着信 SIP Invite メッセージの Request-URI に一致させるために使用される URI 音声クラス。
URI classes: Incoming (To)	ダイヤルピアを着信 SIP Invite メッセージの To ヘッダーに一致させるために使用される URI 音声クラス。
URI classes: Incoming (From)	ダイヤルピアを着信 SIP Invite メッセージの From ヘッダーに一致させるために使用される URI 音声クラス。
URI classes: Destination	ダイヤルピアを発信コールの宛先 URI に一致させるために使用される URI 音声クラス。
modem transport	モデムコールで設定されている転送メソッド。デフォルトは system で、これはグローバルに設定された値を使用中であることを意味します。
huntstop	このダイヤルピアに対して huntstop コマンドが有効か無効か。
in bound application associated	このダイヤルピアが着信コールレグに使用されるときに、このダイヤルピアに関連付けられている IVR アプリケーション。
out bound application associated	このダイヤルピアが発信コールレグに使用されるときに、このダイヤルピアに関連付けられている IVR アプリケーション。

フィールド	説明
dnis-map	dnis-map コマンドで当該ダイヤルピアに設定されている着信番号識別サービス (DNIS) マップの名前。
permission	このダイヤルピアに設定された権限レベル。
incoming COR list	着信ダイヤルピアの照合時に関連付けられる制限クラス (COR) 基準。
outgoing COR list	適切なアウトバンドダイヤルピアを判別するために使用される COR 基準。
Translation profile (Incoming)	このダイヤルピアに適用される着信トランスレーション基準。
Translation profile (Outgoing)	アウトバンドダイヤルピアの照合時に、このダイヤルピアに適用されるトランスレーション基準。
incoming call blocking	このダイヤルピアに着信コールのブロッキングが適用されているかどうかを示します。
translation-profile	このダイヤルピアに関連付けられた事前定義されたトランスレーションプロファイル。
disconnect-cause	前回のコールに関連付けられたエンコード済みのネットワーク原因。
voice-port	このダイヤルピアへのコール着信時に経由する音声ポート。
type	ダイヤルピアのタイプ (POTS または VoIP)。
prefix	テレフォニーデバイスへの転送前に、ダイヤル文字列の前に追加されるプレフィックス番号。
forward-digits	forward-digits コマンドで設定された、テレフォニーインターフェイスに転送する番号。
session-target	このダイヤルピアに設定されたセッションターゲット (IP アドレスまたはホスト名)。
direct-inward-dial	このダイヤルピアに対して direct-inward-dial コマンドが有効か無効か。
digit-strip	当該ダイヤルピアでディジットストリッピングが有効か無効か。Enabled (有効) がデフォルトです。
register E.164 number with GK	当該ダイヤルピアで完全な E.164 形式の番号をローカルゲートキーパーに登録するように設定されているかどうかを示します。

フィールド	説明
fax rate	ファクスコールで設定されている伝送速度。デフォルトは <code>system</code> で、これはグローバルに設定された値を使用中であることを意味します。
payload size	ファクス送信ペイロードサイズ (バイト単位)。
session-protocol	IPバックボーンを介したローカルルータとリモートルータ間でのインターネットコールに使用されるセッションプロトコル。
req-qos	このダイヤルピアのコールに設定された要求されたサービス品質。
acc-qos	このダイヤルピアのコールに設定されている、許容できる最低のサービス品質。
codec	このダイヤルピアに設定されている音声コーデック。デフォルトは <code>G.729 (8 kbps)</code> です。
Expect factor	このダイヤルピアを介したコールにおける音声品質の期待係数 (ユーザー要求)。
Icpif	このダイヤルピアから送信されるコールに対して設定された計画劣化係数の算出値 (ICPIF)。
VAD	このダイヤルピアで音声アクティベーション検出 (VAD) が有効になっているかどうかを示します。
voice class sip url	voice-class sip url コマンドで設定された、このダイヤルピアへの SIP コールに使用される URL 形式 (SIP または TEL)。デフォルトは <code>system</code> で、これは音声サービス VoIP SIP モードで url コマンドを使用してグローバルに設定された値が使用されることを意味します。
voice-class sip rel1xx	voice-class sip rel1xx コマンドの設定で、信頼性の高い暫定応答がサポートされているかどうかを示します。デフォルトは <code>system</code> で、これは音声サービス VoIP SIP モードで rel1xx コマンドを使用してグローバルに設定された値が使用されることを意味します。
voice class perm tag	voice-class permanent コマンドでこのダイヤルピアに割り当てられたトランクの音声クラス。
Connect Time	このダイヤルピアに関連付けられたコール接続時間を示す測定単位。
Charged Units	このダイヤルピアに請求されるコールユニットの数。

フィールド	説明
Successful Calls	システムの起動以降、このダイヤルピアに送信された完了済みコール数。
Failed Calls	システムの起動以降、このダイヤルピアに送信された未完了の（失敗した）コール数。
Incomplete Calls	システムの起動以降、このダイヤルピアに送信された未完了コール数。
Accepted Calls	システムの起動以降に受け入れられた、このダイヤルピアからのコール数。
Refused Calls	システムの起動以降に拒否された、このダイヤルピアからのコール数。
Last Disconnect Cause	前回のコールに関連付けられたエンコード済みのネットワーク原因。この値は、コールが開始またはクリアされるたびに更新され、インターフェイスタイプと当該インターフェイスで使用されているセッションプロトコルにより異なります。
Last Disconnect Text	前回コールが終了した理由を説明する ASCII テキスト。
Last Setup Time	このピアへの前回コール開始時点におけるシステム稼働時間の値。
Matched	このダイヤルピアに一致する宛先パターン。
Digits	このダイヤルピアに一致するこの宛先パターンの桁数。
Target	このダイヤルピアに一致したセッションターゲット（IPアドレスまたはホスト名）。

関連コマンド

Command	Description
show dialplan in-carrier	特定の送信元キャリアに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan in-trunk-group-label	特定の送信元トランクグループに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan incall	特定の発信番号または音声ポートに一致する POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan number	特定の電話番号に一致するダイヤルピアを表示します。

show dialplan incall

特定の発信番号または音声ポートに一致する着信 POTS ダイアルピアを表示するには、特権 EXEC モードで **show dialplan incall number** コマンドを使用します。

show dialplan incall *voice-port* **number** *calling-number* [**timeout**]

構文の説明	
<i>voice -port</i>	音声ポートの場所。この引数のシンタックスはプラットフォーム固有です。特定プラットフォームに対応するシンタックスについては、 voice-port コマンドを参照してください。
<i>calling -number</i>	着信音声コールの E.164 発信番号または ANI。
timeout	(任意) 可変長の宛先パターンの照合を許可します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に導入され、キーワード timeout が追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドをトラブルシューティングツールとして使用すると、選択した発信番号および音声ポートをもとに、着信コールに一致する POTS ダイアルピアを判別できます。ルータは、これらの項目が一致するかどうかを次の順序で調べます。

1. ダイアルピアで応答アドレスが設定されている発信番号
2. ダイアルピアで宛先パターンが設定されている発信番号
3. ダイアルピアで音声ポートが設定されている音声ポート

ルータは最初に、発信番号 (ANI) に基づいてダイアルピアの照合を試行します。発信番号に基づいてダイアルピアを照合できなかった場合、ルータは選択した音声インターフェイスに基づいて、コールを POTS ダイアルピアに照合します。複数のダイアルピアで同じ音声ポートが使用されている場合、ルータは最初に一致したダイアルピアを選択します。**timeout** キーワードを使用して、ダイアルピアに関連付けられた可変長の宛先パターンの照合を有効にします。これによって、指定するダイアルピア番号との一致が見つかる可能性を上げることができます。



- (注) ルータに着信する実際の音声コールでは、ルータは着信番号（ダイヤル番号識別サービス（DNIS）番号）を、ダイヤルピアで設定された `incoming called-number` に対して照合しようと試行します。ただし `show dialplan incall number` コマンドの使用時には、ルータは着信番号を考慮しません。

例

次の出力例は、インターフェイス `1/0/0:D` が受信した発信番号 `12345` の着信コールに、POTS ダイヤルピア `10` が一致したことを示しています。

```
Router# show dialplan incall 1/0/0:D number 12345
Macro Exp.: 12345
VoiceEncapPeer10
  information type = voice,
  tag = 10, destination-pattern = `123..',
  answer-address = `', preference=0,
  numbering Type = `unknown'
  group = 10, Admin state is up, Operation state is up,
  incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  huntstop = disabled,
  in bound application associated: DEFAULT
  out bound application associated:
  permission :both
  incoming COR list:maximum capability
  outgoing COR list:minimum requirement
  type = pots, prefix = `',
  forward-digits default
  session-target = `', voice-port = `1/0/0:D',
  direct-inward-dial = disabled,
  digit_strip = enabled,
  register E.164 number with GK = TRUE
  Connect Time = 0, Charged Units = 0,
  register E.164 number with GK = TRUE
  Connect Time = 0, Charged Units = 0,
  Successful Calls = 0, Failed Calls = 0,
  Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
  Last Disconnect Cause is "",
  Last Disconnect Text is "",
  Last Setup Time = 0.
Matched: 12345  Digits: 3
Target:
```

次の出力例では、発信番号 `888` に一致する宛先パターンまたは応答アドレスを持つダイヤルピアがなかった場合、このコールは音声ポート `1/0/1:D` に着信し、かつこの音声ポートはダイヤルピア `99` に設定されていることから、この着信コールには POTS ダイヤルピア `99` が一致することが示されています。

```
Router# show dialplan incall 1/0/1:D number 888
Macro Exp.: 888
VoiceEncapPeer99
  information type = voice,
  tag = 99, destination-pattern = `99...',
  answer-address = `', preference=1,
  numbering Type = `national'
  group = 99, Admin state is up, Operation state is up,
  incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
```

```

DTMF Relay = disabled,
huntstop = disabled,
in bound application associated: DEFAULT
out bound application associated:
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
type = pots, prefix = `5',
forward-digits 4
session-target = `, voice-port = `1/0/1:D',
direct-inward-dial = enabled,
digit_strip = enabled,
register E.164 number with GK = TRUE
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0,
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched:   Digits: 0
Target:

```

関連コマンド

Command	Description
show dialplan dialpeer	着信ダイヤル番号およびコマンドラインで指定した COR 条件に基づき、一致する発信ダイヤルピアを表示します。
show dialplan in-carrier	特定の送信元キャリアに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan in-trunk-group-label	特定の送信元トランクグループに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan number	特定の電話番号に一致するダイヤルピアを表示します。

show dialplan incall uri

着信音声コール内で特定の Uniform Resource Identifier (URI) に一致するダイヤルピアを表示するには、特権 EXEC モードで **show dialplan incall uri** コマンドを使用します。

H.323 セッションプロトコル

```
show dialplan incall uri h323 {called | calling} uri
```

SIP セッションプロトコル

```
show dialplan incall uri sip {from | request | to} uri
```

構文の説明

called	incoming uri called コマンドでダイヤルピアに設定された音声クラス。
calling	incoming uri calling コマンドでダイヤルピアに設定された音声クラス。
from	incoming uri from コマンドでダイヤルピアに設定された音声クラス。
request	incoming uri request コマンドでダイヤルピアに設定された音声クラス。
to	incoming uri to コマンドでダイヤルピアに設定された音声クラス。
uri	着信コールの URI。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- このコマンドをトラブルシューティング用途に使用すると、選択した URI およびコールメッセージで指定したフィールドに基づき、着信コールに一致するダイヤルピアを特定できます。
- コールの照合に使用する URI 形式を設定するには、**voice class uri** コマンドを使用します。着信ダイヤルピアの URI 音声クラスを設定するには、**incoming uri** コマンドを使用します。

例

次に、SIP URI に対するこのコマンドの出力例を示します。

```
Router# show dialplan incall uri sip from sip:5551234
Inbound VoIP dialpeer matching based on SIP URI's
VoiceOverIpPeer10
  peer type = voice, information type = voice,
  description = ``,
```

```

tag = 10, destination-pattern = '',
answer-address = '', preference=0,
CLID Restriction = None
CLID Network Number = ''
CLID Second Number sent
source carrier-id = '', target carrier-id = '',
source trunk-group-label = '', target trunk-group-label = '',
numbering Type = 'unknown'
group = 10, Admin state is up, Operation state is up,
incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
modem transport = system,
URI classes:
    Incoming (Request) =
    Incoming (To) =
    Incoming (From) = 101
    Destination =
huntstop = disabled,
in bound application associated: 'get_headers_tcl'
out bound application associated: ''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
incoming call blocking:
translation-profile = ''
disconnect-cause = 'no-service'
type = voip, session-target = '',
technology prefix:
settle-call = disabled
ip media DSCP = ef, ip signaling DSCP = af31, UDP checksum = disabled,
session-protocol = sipv2, session-transport = system, req-qos = best-ef
acc-qos = best-effort,
RTP dynamic payload type values: NTE = 101
Cisco: NSE=100, fax=96, fax-ack=97, dtmf=121, fax-relay=122
        CAS=123, ClearChan=125, PCM switch over u-law=0,A-law=8
RTP comfort noise payload type = 19
fax rate = voice, payload size = 20 bytes
fax protocol = system
fax-relay ecm enable
fax NSF = 0xAD0051 (default)
codec = g729r8, payload size = 20 bytes,
Expect factor = 0, Icpif = 20,
Playout Mode is set to default,
Initial 60 ms, Max 300 ms
Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
Fax nominal 300 ms
Max Redirects = 1, signaling-type = ext-signal,
VAD = enabled, Poor QOV Trap = disabled,
Source Interface = NONE
voice class sip url = system,
voice class sip rellxx = system,
voice class perm tag = ''
Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched: Digits: 0
Target:

```

以下は、TEL URI に対するこのコマンドの出力例を示します。

```
Router# show dialplan incall uri h323 called tel:1234567
  Inbound VoIP dialpeer matching based on H323 URI's
VoiceOverIpPeer25
  peer type = voice, information type = voice,
  description = '',
  tag = 25, destination-pattern = '',
  answer-address = '', preference=0,
  CLID Restriction = None
  CLID Network Number = ''
  CLID Second Number sent
  source carrier-id = '', target carrier-id = '',
  source trunk-group-label = '', target trunk-group-label = '',
  numbering Type = 'unknown'
  group = 25, Admin state is up, Operation state is up,
  incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  modem transport = system,
  URI classes:
    Incoming (Called) = 103
    Incoming (Calling) =
    Destination =
  huntstop = disabled,
  in bound application associated: 'callme'
  out bound application associated: ''
  dnis-map =
  permission :both
  incoming COR list:maximum capability
  outgoing COR list:minimum requirement
  Translation profile (Incoming):
  Translation profile (Outgoing):
  incoming call blocking:
  translation-profile = ''
  disconnect-cause = 'no-service'
  type = voip, session-target = 'ipv4:10.10.1.1',
  technology prefix:
  settle-call = disabled
  ip media DSCP = ef, ip signaling DSCP = af31, UDP checksum = disabled,
  session-protocol = cisco, session-transport = system, req-qos = best-ef
  acc-qos = best-effort,
  RTP dynamic payload type values: NTE = 101
  Cisco: NSE=100, fax=96, fax-ack=97, dtmf=121, fax-relay=122
        CAS=123, ClearChan=125, PCM switch over u-law=0,A-law=8
  RTP comfort noise payload type = 19
  fax rate = voice, payload size = 20 bytes
  fax protocol = system
  fax-relay ecm enable
  fax NSF = 0xAD0051 (default)
  codec = g729r8, payload size = 20 bytes,
  Expect factor = 0, Icpif = 20,
  Playout Mode is set to default,
  Initial 60 ms, Max 300 ms
  Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
  Fax nominal 300 ms
  Max Redirects = 1, signaling-type = ext-signal,
  VAD = enabled, Poor QOV Trap = disabled,
  Source Interface = NONE
  voice class sip url = system,
  voice class sip rellxx = system,
  voice class perm tag = ''
  Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
  Connect Time = 0, Charged Units = 0,
```



```

Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched:   Digits: 0
Target:

```

下の表は、各コマンド出力で表示される重要なフィールドについて説明したものです。

表 5: *show dialplan incall uri* のフィールドの説明

フィールド	説明
VoiceOverIpPeer	入力した発信番号に関連付けられたダイヤルピア。
information type	このコールの情報タイプ。たとえば、音声またはファクスなど。
tag	ダイヤルピアを識別する固有の番号。
destination-pattern	このダイヤルピアに設定されている宛先パターン（着信番号）。
answer-address	このダイヤルピアに設定されている応答アドレス（発信番号）。
preference	このダイヤルピアに設定されているハントグループの優先順位。
Admin state	このダイヤルピアの管理状態。
Operation state	このダイヤルピアの動作状態。
incoming called-number	このダイヤルピアに設定されている着信番号（DNIS）。
DTMF Relay	このダイヤルピアに対する dtmf-relay コマンドの設定が有効か無効か。
URI classes: Incoming (Request)	ダイヤルピアを着信 SIP Invite メッセージの Request-URI に一致させるために使用される URI 音声クラス。
URI classes: Incoming (To)	ダイヤルピアを着信 SIP Invite メッセージの To ヘッダーに一致させるために使用される URI 音声クラス。
URI classes: Incoming (From)	ダイヤルピアを着信 SIP Invite メッセージの From ヘッダーに一致させるために使用される URI 音声クラス。
URI classes: Destination	ダイヤルピアを発信コールの宛先 URI に一致させるために使用される URI 音声クラス。
huntstop	このダイヤルピアに対して huntstop コマンドが有効か無効か。
in bound application associated	このダイヤルピアが着信コールログに使用されるときに、このダイヤルピアに関連付けられている IVR アプリケーション。

フィールド	説明
out bound application associated	このダイヤルピアが発信コールレグに使用されるときに、このダイヤルピアに関連付けられている IVR アプリケーション。
dnis-map	dnis-map コマンドで当該ダイヤルピアに設定されている着信番号識別サービス (DNIS) マップの名前。
permission	このピアに設定された権限レベル。
type	ダイヤルピアのタイプ (POTS または VoIP)。
session-target	このダイヤルピアに設定されたセッションターゲット (IP アドレスまたはホスト名)。
session-protocol	IP バックボーンを介したローカルルータとリモートルータ間でのインターネットコールに使用されるセッションプロトコル。
req-qos	このダイヤルピアのコールに設定された要求されたサービス品質。
acc-qos	このピアのコールに設定されている、許容できる最低のサービス品質。
codec	このダイヤルピアに設定されている音声コーデック。デフォルトは G.729 (8 kbps) です。
Expect factor	このピアを介したコールにおける音声品質の期待係数 (ユーザー要求)。
Icpif	ダイヤルピアから送信されるコールに対して設定された計画劣化係数の算出値 (ICPIF)。
VAD	このダイヤルピアで音声アクティベーション検出 (VAD) が有効になっているかどうか。
voice class sip url	voice-class sip url コマンドで設定された、このダイヤルピアへの SIP コールに使用される URL 形式 (SIP または TEL)。デフォルトは system で、これは音声サービス VoIP SIP モードで url コマンドを使用してグローバルに設定された値が使用されることを意味します。
voice-class sip rel1xx	voice-class sip rel1xx コマンドの設定で、信頼性の高い暫定応答がサポートされているかどうか。デフォルトは system で、これは音声サービス VoIP SIP モードで rel1xx コマンドを使用してグローバルに設定された値が使用されることを意味します。
voice class perm tag	voice-class permanent コマンドでこのダイヤルピアに割り当てられたトランクの音声クラス。

フィールド	説明
Connect Time	このダイヤルピアに関連付けられたコール接続時間を示す測定単位。
Charged Units	このダイヤルピアに請求されるコールユニットの数。
Successful Calls	システムの起動以降、このピアに送信された完了済みコール数。
Failed Calls	システムの起動以降、このピアに送信された未完了の（失敗した）コール数。
Accepted Calls	システムの起動以降に受け入れられた、このピアからのコール数。
Refused Calls	システムの起動以降に拒否された、このピアからのコール数。
Last Disconnect Cause	前回のコールに関連付けられたエンコード済みのネットワーク原因。この値は、コールが開始またはクリアされるたびに更新され、インターフェイスタイプと当該インターフェイスで使用されているセッションプロトコルにより異なります。
Last Disconnect Text	前回コールが終了した理由を説明する ASCII テキスト。
Last Setup Time	このピアへの前回コール開始時点におけるシステム稼働時間の値。
Matched	このダイヤルピアに一致する宛先パターン。
Target	このダイヤルピアに一致したセッションターゲット（IPアドレスまたはホスト名）。

関連コマンド

コマンド	説明
debug voice uri	URI 音声クラスに関連するデバッグメッセージを表示します。
incoming uri	VoIP ダイヤルピアを着信コールの URI に一致させるために使用される音声クラスを指定します。
session protocol	ローカルルータとリモートルータ間のコールのダイヤルピアでセッションプロトコルを指定します。
show dial-peer voice	音声ダイヤルピアに関する詳細情報および要約情報を表示します。
show dialplan uri	特定の宛先 URI に一致する発信ダイヤルピアを表示します。
voice class uri	SIP URI または TEL URI を含むコールにダイヤルピアを一致させるための音声クラスを作成または変更します。

コマンド	説明
voice class uri sip preference	SIP URI に対する音声クラスの選択優先順位を設定します。

show dialplan in-carrier

特定の送信元キャリアまたは音声ポートに一致する着信 VoIP ダイアルピアまたは着信 POTS ダイアルピアを表示するには、特権 EXEC モードで **show dialplan in-carrier** コマンドを使用します。

show dialplan in-carrier *carrier-id* [{voip|pots}]

構文の説明

<i>carrier-id</i>	VoIP または POTS 送信元キャリアの識別子。
voip	(任意) 検索条件を VoIP ダイアルピアのみに絞り込めます。
pots	(任意) 検索条件を POTS ダイアルピアのみに絞り込めます。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(13)T	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの各種ルータ、ならびに Cisco AS5300、Cisco AS5400 および Cisco AS5800 の各種アクセスサーバーに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをトラブルシューティングツールとして使用すると、コマンドラインで指定したキャリア ID をもとに、着信コールに一致する VoIP または POTS ダイアルピアを判別できます。**show dialplan** コマンドラインで指定した条件に一致する可能性のあるダイアルピアの範囲をさらに絞り込むには、**voip** キーワードまたは **pots** キーワードを使用します。

例

次の出力例は、そのキャリア識別子「aaa」に基づいて別の POTS ダイアルピアと一致する VoIP または POTS ダイアルピアを表示したものです。

```
Router# show dialplan in-carrier aaa pots
Inbound pots dialpeer Matching based on source carrier-id
VoiceEncapPeer7777
    information type = voice,
    description = '',
    tag = 7777, destination-pattern = '',
    answer-address = '', preference=0,
    CLID Restriction = None
    CLID Network Number = ''
    CLID Second Number sent
    source carrier-id = 'aaa',          target carrier-id = '',
    source trunk-group-label = '',    target trunk-group-label = '',
    numbering Type = 'unknown'
    group = 7777, Admin state is up, Operation state is up,
    incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
    DTMF Relay = disabled,
    huntstop = disabled,
    in bound application associated:'DEFAULT'
```

```

out bound application associated:''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
incoming call blocking:
translation-profile = ''
disconnect-cause = `no-service'
voice-port = ''
type = pots, prefix = '',
forward-digits default
session-target = '', up,
direct-inward-dial = disabled,
digit_strip = enabled,
register E.164 number with GK = TRUE
fax rate = system, payload size = 20 bytes
Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched: Digits:0
Target:

```

関連コマンド

Command	Description
show dialplan dialpeer	着信ダイヤル番号およびコマンドラインで指定した COR 条件に基づき、一致する発信ダイヤルピアを表示します。
show dialplan incall	特定の発信番号または音声ポートに一致する POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan in-trunk-group-label	特定の送信元トランクグループに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan number	特定の電話番号に一致するダイヤルピアを表示します。

show dialplan in-trunk-group-label

特定のトランクグループラベルに一致する着信 VoIP ダイアルピアまたは着信 POTS ダイアルピアを表示するには、特権 EXEC モードで **show dialplan in-trunk-group-label** コマンドを使用します。

show dialplan in-trunk-group-label *trunk-group-label* {**pots** | **voip**}

構文の説明

<i>trunk-group-label</i>	VoIP または POTS 送信元トランクグループの識別子。
voip	(任意) 検索条件を VoIP ダイアルピアのみに絞り込めます。
pots	(任意) 検索条件を POTS ダイアルピアのみに絞り込めます。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(13)T	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの各種ルータ、ならびに Cisco AS5300、Cisco AS5400 および Cisco AS5800 の各種アクセスサーバーに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、指定した送信元トランクグループの識別子をもとに、着信コールに一致する VoIP または POTS ダイアルピアを判別できます。ルータは、これらの項目が一致するかどうかをリストの順序で調べます。**show dialplan** コマンドラインで指定した条件に一致する可能性のあるダイアルピアの範囲をさらに絞り込むには、**voip** キーワードまたは **pots** キーワードを使用します。

例

次の出力例には、トランクグループラベル「NYtrunk」に基づいて、発信 POTS ダイアルピアに一致した着信 VoIP ダイアルピアまたは着信 POTS ダイアルピアが表示されています。

```
Router# show dialplan in-trunk-group-label NYtrunk pots
  Inbound pots dialpeer Matching based on source trunk-group-label
VoiceEncapPeer2003
  information type = voice,
  description = '',
  tag = 2003, destination-pattern = '',
  answer-address = '', preference=0,
  CLID Restriction = None
  CLID Network Number = ''
  CLID Second Number sent
  source carrier-id = '', target carrier-id = '',
  source trunk-group-label = 'NYtrunk', target trunk-group-label = '',
  numbering Type = 'unknown'
  group = 2003, Admin state is up, Operation state is up,
  incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  huntstop = disabled,
```

```

in bound application associated:'debit-card'
out bound application associated:''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
incoming call blocking:
translation-profile = ``
disconnect-cause = `no-service'
voice-port = ``
type = pots, prefix = `',
forward-digits default
session-target = `', up,
direct-inward-dial = disabled,
digit_strip = enabled,
register E.164 number with GK = TRUE
fax rate = system, payload size = 20 bytes
Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched: Digits:0
Target:

```

関連コマンド

Command	Description
show dialplan dialpeer	着信ダイヤル番号およびコマンドラインで指定した COR 条件に基づき、一致する発信ダイヤルピアを表示します。
show dialplan in-carrier	特定の送信元キャリアに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan incall	特定の発信番号または音声ポートに一致する POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan number	特定の電話番号に一致するダイヤルピアを表示します。

show dialplan number

特定の電話番号がダイヤルされたときにどの発信ダイヤルピアに到達するのを表示するには、特権 EXEC モードで **show dialplan number** コマンドを使用します。

show dialplan number *dial-string* [**carrier identifier**] [{**fax** | **huntstop** | **voice**}] [**timeout**]

構文の説明

<i>dial-string</i>	特定の宛先パターン (E.164 電話番号)。
carrier	(任意) 該当するダイヤルピアの検索を、送信元キャリアの識別子に基づいて行うよう指定します。
identifier	(任意) キーワード carrier に付随する送信元キャリアの識別子。
fax	(任意) ファクス情報タイプ。
huntstop	(任意) 最初のダイヤル文字列一致が検出されると、それ以降のダイヤルピアハンティングを終了します。
timeout	(任意) 可変長の宛先パターンの照合を許可します。
voice	(任意) 音声情報タイプ。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.2(1)	huntstop キーワードが追加されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に導入され、キーワード timeout が追加されました。
12.2(11)T	キーワード carrier 、 fax 、および voice が追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、ダイヤルプランの設定が有効かつ想定どおりに機能しているかどうかをテストできます。**timeout** キーワードを使用して、ダイヤルピアに関連付けられた可変長の宛先パターンの照合を有効にします。これによって、指定するダイヤルピア番号との一致が見つかる可能性を上げることができます。

例

次に、このコマンドで宛先パターン 1001 を指定した場合の出力例を示します。

```
Router# show dialplan number 1001
Macro Exp.: 1001
VoiceEncapPeer1003
```

```

information type = voice,
tag = 1003, destination-pattern = `1001',
answer-address = `', preference=0,
numbering Type = `unknown'
group = 1003, Admin state is up, Operation state is up,
incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
huntstop = enabled,
type = pots, prefix = `',
forward-digits default
session-target = `', voice-port = `1/1',
direct-inward-dial = disabled,
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched: 1001 Digits: 4
Target:
VoiceEncapPeer1004
information type = voice,
tag = 1004, destination-pattern = `1001',
answer-address = `', preference=0,
numbering Type = `unknown'
group = 1004, Admin state is up, Operation state is up,
...
Matched: 1001 Digits: 4
Target:
VoiceEncapPeer1002
information type = voice,
tag = 1002, destination-pattern = `1001',
answer-address = `', preference=0,
numbering Type = `unknown'
group = 1002, Admin state is up, Operation state is up,
...
Matched: 1001 Digits: 4
Target:
VoiceEncapPeer1001
information type = voice,
tag = 1001, destination-pattern = `1001',
answer-address = `', preference=0,
numbering Type = `unknown'
group = 1001, Admin state is up, Operation state is up,
...
Matched: 1001 Digits: 4
Target:

```

次に、このコマンドで宛先パターン 1001 およびキーワード **huntstop** を指定した場合の出力例を示します。

```

Router# show dialplan number 1001 huntstop
Macro Exp.: 1001
VoiceEncapPeer1003
information type = voice,
tag = 1003, destination-pattern = `1001',
answer-address = `', preference=0,
numbering Type = `unknown'
group = 1003, Admin state is up, Operation state is up,
incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
huntstop = enabled,
type = pots, prefix = `',

```

```

forward-digits default
session-target = `', voice-port = `1/1',
direct-inward-dial = disabled,
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched: 1001  Digits: 4
Target:

```

関連コマンド

Command	Description
show dialplan dialpeer	着信ダイヤル番号およびコマンドラインで指定した COR 条件に基づき、一致する発信ダイヤルピアを表示します。
show dialplan incall	特定の発信番号または音声ポートに一致する POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan in-carrier	特定の送信元キャリアに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。
show dialplan in-trunk-group-label	特定の送信元トランクグループに一致する VoIP ダイヤルピアまたは POTS ダイヤルピアを表示します。

show dialplan uri

特定の宛先 Uniform Resource Identifier (URI) に一致する発信ダイヤルピアを表示するには、特権 EXEC モードで **show dialplan uri** コマンドを使用します。

show dialplan uri uri

構文の説明	<i>uri</i> 発信コールの Session Initiation Protocol (SIP) または電話機 (TEL) 宛先 URI。
-------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- このコマンドをトラブルシューティング用途に使用すると、選択した URI に基づき、発信コールに一致するダイヤルピアを特定できます。
- コールとの照合に使用する URI 形式を設定するには、**voice class uri** コマンドを使用します。発信ダイヤルピアの URI 音声クラスを設定するには、**destination uri** コマンドを使用します。

例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show dialplan uri sip:123456
  Outbound dialpeer matching based on destination URI
VoiceOverIpPeer99
  peer type = voice, information type = voice,
  description = '',
  tag = 99, destination-pattern = '',
  answer-address = '', preference=0,
  CLID Restriction = None
  CLID Network Number = ''
  CLID Second Number sent
  source carrier-id = '', target carrier-id = '',
  source trunk-group-label = '', target trunk-group-label = '',
  numbering Type = 'unknown'
  group = 99, Admin state is up, Operation state is up,
  incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  modem transport = system,
  URI classes:
    Incoming (Request) =
    Incoming (To) =
    Incoming (From) =
    Destination = 100
  huntstop = disabled,
```

```

in bound application associated: 'DEFAULT'
out bound application associated: ''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
incoming call blocking:
translation-profile = ''
disconnect-cause = 'no-service'
type = voip, session-target = '',
technology prefix:
settle-call = disabled
ip media DSCP = ef, ip signaling DSCP = af31, UDP checksum = disabled,
session-protocol = sipv2, session-transport = system, req-qos = best-ef
acc-qos = best-effort,
RTP dynamic payload type values: NTE = 101
Cisco: NSE=100, fax=96, fax-ack=97, dtmf=121, fax-relay=122
      CAS=123, ClearChan=125, PCM switch over u-law=0,A-law=8
RTP comfort noise payload type = 19
fax rate = voice, payload size = 20 bytes
fax protocol = system
fax-relay ecm enable
fax NSF = 0xAD0051 (default)
codec = g729r8, payload size = 20 bytes,
Expect factor = 0, Icpif = 20,
Playout Mode is set to default,
Initial 60 ms, Max 300 ms
Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
Fax nominal 300 ms
Max Redirects = 1, signaling-type = ext-signal,
VAD = enabled, Poor QOV Trap = disabled,
Source Interface = NONE
voice class sip url = system,
voice class sip rellxx = system,
voice class perm tag = ''
Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
Matched: Digits: 0
Target:

```

関連コマンド

コマンド	説明
debug voice uri	URI 音声クラスに関連するデバッグメッセージを表示します。
destination uri	ダイヤルピアを発信コールの宛先 URI に一致させるために使用される URI 音声クラスを指定します。
show dialplan incall uri	着信コールの特定の URI に一致するダイヤルピアを表示します。
voice class uri	ダイヤルピアを SIP URI または TEL URI に一致させるための音声クラスを作成または変更します。

コマンド	説明
voice class uri sip preference	SIP URI に対する音声クラスの選択優先順位を設定します。

show dn-numbers

CallManager Express (CME) のディレクトリ番号に関する情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show dn-numbers** コマンドを使用します。

show dn-numbers

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(15)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE リリース 2.4	このコマンドが、Cisco IOS XE リリース 2.4 に統合されました。

例

次に、**show dn-numbers** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show dn-numbers
```

```
Directory numbers
Entry      name          number
1          user1         0
10         user2         7890
3          user3         1234
4          user4         890
12         user5         5676
11         user6         987

ephone directory numbers
DN         name          number
2          user7         1000
4          user10        34567
6          user11        1234567891
10         user12        1234567

sip phone numbers
DN         name          number
1          user13        10000
8          user14        87953893
9          user15        Not Configured
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 6: show dn-numbers のフィールドの説明

フィールド	説明
DN	ディレクトリ番号。
name	接続の名前。

フィールド	説明
number	電話番号。

show dspfarm

動作ステータスや、トランスコーディングおよび会議への DSP リソースの割り当てなど、デジタルシグナルプロセッサ (DSP) ファームサービスの情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show dspfarm** コマンドを使用します。

```
show dspfarm [{all|dsp {active|all|idle|stats bridge-id [sample seconds]}|profile [profile-id]
|sessions [session-id]|video {conference|statistics|transcode}}]
```

Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ

```
show dspfarm {all|dsp {active|all|idle|stats bridge-id [sample seconds]}|profile
[profile-identifier]}
```

構文の説明

all	(任意) DSP ファームサービスに関するすべてのグローバル情報を表示します。
dsp	(任意) DSP ファームサービスに関する DSP の情報を表示します。
active	DSP ファームサービスに関するアクティブな DSP の情報を表示します。
all	DSP ファームサービスに関するすべての DSP の情報を表示します。
idle	DSP ファームサービスに関するアイドル状態の DSP の情報を表示します。
stats	DSP ファームサービスに関する DSP 統計を表示します。
<i>bridge-id</i>	ブリッジ ID で指定したコールブリッジの DSP 統計を表示します。
sample	(任意) 指定したサンプル間隔の統計情報を表示します。
<i>seconds</i>	(任意) DSP のサンプル間隔時間 (秒単位)。
profile	(任意) DSP ファームサービスに関するプロファイルを表示します。
<i>profile-id</i>	(任意) DSP ファームサービスに関するプロファイル ID を表示します。
sessions	(任意) DSP ファームサービスに関するセッションおよび接続を表示します。
<i>session-id</i>	(任意) DSP ファームサービスに表示するセッション ID。
video	(任意) ビデオリソースに関する情報を表示します。
conference	(任意) 会議の各参加者に使用されたコーデック、ビデオブリッジチャネル、送信 (tx) パケットと受信 (rx) パケットなどの DSP 情報を、会議セッションごとにグループ化して表示します。
statistics	(任意) コールブリッジの DSP 統計情報を表示します。
transcode	(任意) トランスコーディングコールの DSP ステータスおよび統計を表示します。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(5)YH	このコマンドが Cisco VG200 に導入されました。
12.2(13)T	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 3700 シリーズで導入されました。
12.4(15)T	キーワード stats 、 sample 、 sessions 、および profile が追加されました。引数 <i>bridge-id</i> 、 <i>profile-id</i> 、 <i>seconds</i> 、および <i>session-id</i> が追加されました。
Cisco IOS XE リリース 3.2S	このコマンドが Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに導入されました。
15.1(4)M	このコマンドが変更されました。キーワード video 、 conference 、 statistics 、および transcode が追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドが使用されるルータには、DSP リソースを提供するために、デジタル T1/E1 パケット音声トランク ネットワークモジュール (NM-HDV) または高密度音声 (HDV) トランスコーディング/会議用 DSP ファーム (NM-HDV-FARM) が搭載されている必要があります。

Cisco ASR 1000 シリーズルータ

show dspfarm コマンドを使用すると、動作ステータスや、トランスコーディング用 DSP リソースの割り当てなどの DSP ファームサービス情報を表示できます。



(注) Cisco ASR 1000 シリーズルータでは、キーワード **session** および引数 *session-id* はサポートされていません。

例

次に、show dspfarm コマンドの出力例をいくつかの形式で示します。フィールドは自明のため説明を省略します。

```
Router# show dspfarm
DSPFARM Configuration Information:
Admin State: UP, Oper Status: ACTIVE - Cause code: NONE
Transcoding Sessions: 4, Conferencing Sessions: 0
RTP Timeout: 600
Router# show dspfarm all
DSPFARM Configuration Information:
Admin State: UP, Oper Status: ACTIVE - Cause code: NONE
Transcoding Sessions: 4, Conferencing Sessions: 2
RTP Timeout: 1200
Connection average duration: 3600, Connection check interval 600
Codec G729 VAD: ENABLED
Total number of active session(s) 0, and connection(s) 0
SLOT  DSP  CHNL  STATUS USE  TYPE  SESS-ID  CONN-ID  PKTS-RXED  PKTS-TXED
1     3     1     UP     FREE  conf    -        -         -         -
```

```

1   3   2   UP   FREE conf - - - -
1   3   3   UP   FREE conf - - - -
1   3   4   UP   FREE conf - - - -
1   3   5   UP   FREE conf - - - -
1   3   6   UP   FREE conf - - - -
1   4   1   UP   FREE conf - - - -
1   4   2   UP   FREE conf - - - -
1   4   3   UP   FREE conf - - - -
1   4   4   UP   FREE conf - - - -
1   4   5   UP   FREE conf - - - -
1   4   6   UP   FREE conf - - - -
1   5   1   UP   FREE xcode - - - -
1   5   2   UP   FREE xcode - - - -
1   5   3   UP   FREE xcode - - - -
1   5   4   UP   FREE xcode - - - -
1   5   5   UP   FREE xcode - - - -
1   5   6   UP   FREE xcode - - - -
1   5   7   UP   FREE xcode - - - -
1   5   8   UP   FREE xcode - - - -

```

Total number of DSPFARM DSP channel(s) 20

Router# **show dspfarm dsp all**

DSPFARM Configuration Information:

Admin State: UP, Oper Status: ACTIVE - Cause code: NONE

Transcoding Sessions: 4, Conferencing Sessions: 2

RTP Timeout: 1200

Connection average duration: 3600, Connection check interval 600

Codec G729 VAD: ENABLED

Total number of active session(s) 0, and connection(s) 0

SLOT	DSP	CHNL	STATUS	USE	TYPE	SESS-ID	CONN-ID	PKTS-RXED	PKTS-TXED
1	3	1	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	3	2	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	3	3	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	3	4	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	3	5	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	3	6	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	4	1	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	4	2	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	4	3	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	4	4	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	4	5	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	4	6	UP	FREE	conf	-	-	-	-
1	5	1	UP	FREE	xcode	-	-	-	-
1	5	2	UP	FREE	xcode	-	-	-	-
1	5	3	UP	FREE	xcode	-	-	-	-
1	5	4	UP	FREE	xcode	-	-	-	-
1	5	5	UP	FREE	xcode	-	-	-	-
1	5	6	UP	FREE	xcode	-	-	-	-
1	5	7	UP	FREE	xcode	-	-	-	-
1	5	8	UP	FREE	xcode	-	-	-	-

Total number of DSPFARM DSP channel(s) 20

Router# **show dspfarm sessions**

sess_id	conn_id	stype	mode	codec	pkt	ripaddr	rport	sport
4	145	xcode	sendrcv	g711a	20	10.10.10.19	19460	21284
4	161	xcode	sendrcv	g729	10	10.10.10.28	19414	20382
5	177	xcode	sendrcv	g711u	20	10.10.10.17	18290	21170
5	193	xcode	sendrcv	g729b	10	10.10.10.18	19150	18968

次の出力例は、ビデオ会議とビデオトランスコーディング用の dspfarm プロファイルを表示したものです。

Router#

show dspfarm profile

Profile ID = 1, Service = VIDEO CONFERENCING, Resource ID = 2

```

Video Conference Type : HOMOGENEOUS, Layout : disabled
Profile Description :
Profile Service Mode : Non Secure
Profile Admin State : DOWN
Profile Operation State : DOWN
Application : SCCP Status : NOT ASSOCIATED
Resource Provider : FLEX_DSPRM Status : NONE
Number of Resource Configured : 1
Number of Resource Available : 0
Maximum conference participants : 16
Codec Configuration: num_of_codecs:6
Codec : g711ulaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g711alaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g729ar8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729abr8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729r8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729br8, Maximum Packetization Period : 60
Video Codec Configuration:
Codec : h263
Resolution : cif
Frame rate:30, Min bitrate:320kbps, Max bitrate:320kbps
Payload protocol : rfc-2190, Extension : annex-none
Profile ID = 2, Service = VIDEO CONFERENCING, Resource ID = 3
Video Conference Type : HETEROGENEOUS, Layout : disabled
Profile Description :
Profile Service Mode : Non Secure
Profile Admin State : UP
Profile Operation State : ACTIVE IN PROGRESS
Application : SCCP Status : ASSOCIATION IN PROGRESS
Resource Provider : FLEX_DSPRM Status : UP
Number of Resource Configured : 1
Number of Resource Available : 1
Maximum conference participants : 4
Maximum video ports : 4
Codec Configuration: num_of_codecs:6
Codec : g729br8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729r8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729abr8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729ar8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g711alaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g711ulaw, Maximum Packetization Period : 30
Video Codec Configuration:
Codec : h264
Resolution : qcif
Frame rate:15, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Frame rate:30, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Resolution : cif
Frame rate:15, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Frame rate:30, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Codec : h263
Resolution : qcif
Frame rate:15, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Frame rate:30, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Resolution : cif
Frame rate:15, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Frame rate:30, Min bitrate:64kbps, Max bitrate:704kbps
Dspfarm Profile Configuration
Profile ID = 3, Service =Universal TRANSCODING, Resource ID = 1
Profile Description :
Profile Service Mode : Non Secure
Profile Admin State : DOWN
Profile Operation State : DOWN
Application : SCCP Status : NOT ASSOCIATED
Resource Provider : FLEX_DSPRM Status : NONE

```

```

Number of Resource Configured : 0
Number of Resource Available : 0
Codec Configuration: num_of_codecs:4
Codec : g711ulaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g711alaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g729ar8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729abr8, Maximum Packetization Period : 60

```

次の出力例は、ビデオ会議用の DSP 情報を表示したものです。

```

Router# show dspfarm video conference
VIDEO CONFERENCE SESSION: slot 0 dsp 3 channel_id 1 rsc_id 8 profile_id 101
conferee_id 1 name_num: 62783363
    audio_codec g711u    pkt_size 160 bridge_id 1
    dsp_txed_pkts 25993    dsp_rxed_pkts 25888
conferee_id 1 name_num: 62783363
    video_codec H264_VGA rfc_number RFC3984 payload rx: 97    tx:97
    framerate 30 bitrate(k) 960 annex 0x40
    cluster_id 0 bridge_id 2 layout_id 0
    dsp_txed_pkts 59230    dsp_rxed_pkts 63019
conferee_id 2 name_num: 62783365
    audio_codec g711u    pkt_size 160 bridge_id 3
    dsp_txed_pkts 21682    dsp_rxed_pkts 21598
conferee_id 2 name_num: 62783365
    video_codec H264_4CIF rfc_number RFC3984 payload rx: 97    tx:97
    framerate 30 bitrate(k) 960 annex 0x40
    cluster_id 1 bridge_id 4 layout_id 0
    dsp_txed_pkts 49488    dsp_rxed_pkts 78510
conferee_id 3 name_num: 3004
    audio_codec g711u    pkt_size 160 bridge_id 5
    dsp_txed_pkts 12130    dsp_rxed_pkts 12067
conferee_id 3 name_num: 3004
    video_codec H264_CIF rfc_number RFC3984 payload rx: 97    tx:97
    framerate 30 bitrate(k) 704 annex 0x40
    cluster_id 2 bridge_id 6 layout_id 0
    dsp_txed_pkts 20354    dsp_rxed_pkts 25702
conferee_id 4 name_num: LifeSize LifeSize
    audio_codec g711u    pkt_size 160 bridge_id 7
    dsp_txed_pkts 1751    dsp_rxed_pkts 1672
conferee_id 4 name_num: LifeSize LifeSize
    video_codec H264_4CIF rfc_number RFC3984 payload rx: 96    tx:96
    framerate 30 bitrate(k) 1100 annex 0x40
    cluster_id 1 bridge_id 8 layout_id 0
    dsp_txed_pkts 3558    dsp_rxed_pkts 3569
cluster_id 0 video_codec H264_VGA rfc_number RFC3984 rfc_payload 100
    framerate 30 bitrate(k) 1000, annex 0x40
decoder_id 1 slot 0 dsp 13 codec h264 vga cluster_id 0
encoder_id 1 slot 0 dsp 10 codec h264 vga cluster_id 0
cluster_id 1 video_codec H264_4CIF rfc_number RFC3984 rfc_payload 100
    framerate 30 bitrate(k) 1000, annex 0x40
decoder_id 1 slot 0 dsp 2 codec h264 4cif cluster_id 1
encoder_id 1 slot 0 dsp 7 codec h264 4cif cluster_id 1
cluster_id 2 video_codec H264_CIF rfc_number RFC3984 rfc_payload 100
    framerate 30 bitrate(k) 704 , annex 0x40
decoder_id 1 slot 0 dsp 15 codec h264 cif cluster_id 2
encoder_id 1 slot 0 dsp 14 codec h264 cif cluster_id 2
Total number of DSPFARM DSP channel(s) 1

```

次の出力例は、ビデオトランスコーディングを使用するコールの統計を表示したものです。

```
Router# show dspfarm dsp stats
```

```
Gathering total stats...
Video Statistics for bridge_id=3 call_id=2
Video Decoder Statistics:
  Slot=0 DSP_Id=8 Decoder_Id=1
  CallDuration=268 Codec=1 ProfileId=0x0 LevelId=0
  PicWidth=352 PicHeight=288 FrameRate=30 Bitrate=360000
  NumMacroBlocksConcealed=0 NumFramesConcealed=0
  NumPackets=13269 NumBytesConsumed=12096254
  NumBadHeaderPackets=0 NumOutOfSyncPackets=24
  NumBufferOverflow=0
Video Encoder Statistics:
  Slot=0 DSP_Id=2 Encoder_Id=1
  Duration=268 Codec=1 ProfileId=0x0 LevelId=0
  PicWidth=176 PicHeight=144 FrameRate=30 Bitrate=704000
  InstantBitrate=440000 NumPackets=17571 NumBytesGenerated=14830996
```

次の出力例は、ビデオ会議の統計を表示したものです。

```
Router#
show dspfarm dsp stats
Gathering total stats...
Video Statistics for bridge_id=3 call_id=4
Video Conferee Status - ConfereeID=1
  ContributionState=0x1 IngressMute=0 EgressMute=0
  DtmfRtpPlt=0 ClusterId=1 StreamDir=3
  PayloadType=0x6161 TxSSRC=0x1F3C RtpProtocol=2
  CodecType=2 Annex=0x0 PicWidth=352 PicHeight=288
  FrameRate=30 Bitrate(x100)=3760
Video Conferee Statistics - ConfereeID=1
  TotalRxPackets=5076 TotalRxBytes=3957126
  TotalTxPackets=3829 TotalTxBytes=3429797
  TotalDroppedPackets=3 CurDroppedPackets=0
  TotalOutOfOrderPackets=0 CurOutOfOrderPackets=0
  MaxObservedJitter=0 CurObservedJitter=0
  MaxObservedDelay=0 CurObservedDelay=0
  MaxOutOfSyncDelay=0 CurOutOfSyncDelay=0
  ActualFrameRate=0 ActualBitrate(x100)=2017
  FastVideoUpdateRate=0 TotalDuration=135
Video Conference Status:
  ServiceType=0 MuteAllStatus=0
  CurSpeakerConfereeId=1 LastSpeakerConfereeId=3 NewSpeakerConfereeId=0
  ConfereeIdBitMap=0x07
Video Conference Statistics:
  NumActiveChans=3 NumMaxChans=1
  TotalRxPackets=42589 TotalRxBytes=29979147
  TotalTxPackets=12361 TotalTxBytes=10003701
  TotalDroppedPackets=3 CurDroppedPackets=0
  TotalOutOfOrderPackets=0 CurOutOfOrderPackets=0
  MaxObservedJitter=0 CurObservedJitter=0
  MaxObservedDelay=0 CurObservedDelay=0
  MaxOutOfSyncDelay=0 CurOutOfSyncDelay=0
```

次に、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに関する **show dspfarmall** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show dspfarm all
Dspfarm Profile Configuration
  Profile ID = 1, Service = TRANSCODING, Resource ID = 1
  Profile Description :
  Profile Service Mode : Non Secure
  Profile Admin State : UP
  Profile Operation State : ACTIVE
```

```

Application : SBC   Status : ASSOCIATED
Resource Provider : FLEX_DSPRM   Status : UP
Number of Resources Configured : 588
Number of Resources Out of Service : 0
Codec Configuration
Codec : g711ulaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g711alaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g729ar8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729abr8, Maximum Packetization Period : 60
SLOT DSP VERSION STATUS CHNL USE TYPE RSC_ID BRIDGE_ID
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
The following is sample output of the show dspfarm
dsp idle command providing idle dsp information on Cisco ASR 1000 Series Router.
Router# show dspfarm dsp idle

```

```

SLOT DSP VERSION STATUS CHNL USE TYPE RSC_ID BRIDGE_ID
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -
5 1 26.7.0 UP N/A FREE xcode 1 - - -

```

The following is sample output of the **show dspfarm** profile 1 command providing DSP Farm profile configuration details such as application association, number of resources configured, Codecs added, and maximum number of sessions for profile 1 on Cisco ASR 1000 Series Router.

```

Router# show dspfarm profile 1
Dspfarm Profile Configuration
Profile ID = 1, Service = TRANSCODING, Resource ID = 1
Profile Description :
Profile Service Mode : Non Secure
Profile Admin State : UP
Profile Operation State : ACTIVE
Application : SBC   Status : ASSOCIATED
Resource Provider : FLEX_DSPRM   Status : UP
Number of Resources Configured : 588
Number of Resources Out of Service : 0
Codec Configuration
Codec : g711ulaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g711alaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g729ar8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729abr8, Maximum Packetization Period : 60
Router#show dspfarm profile ?
<1-65535> Profile ID
| Output modifiers
<cr>

```

関連コマンド

コマンド	説明
dspfarm (DSP farm)	DSP ファームサービスを有効化します。

show dspfarm profile

選択した Cisco CallManager グループで設定されてる Digital Signal Processor (DSP) ファームプロファイル情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show dspfarm profile** コマンドを使用します。

show dspfarm profile [*profile-identifier*]

構文の説明	<i>profile identifier</i>	(任意) プロファイルを固有に識別する番号。値の範囲は1～65535です。デフォルトはありません。
-------	---------------------------	---

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

show dspfarm profile コマンドを使用すると、Skinny Client Control Protocol (SCCP) Cisco Unified CallManager と DSP ファームプロファイルの関連付けが組織内計画と一致しているかを検証できます。

show dspfarm profile コマンドの出力内容は、各プロファイルで設定されているサービスによって異なります。

例

The following is sample output from the **show dspfarm profile** command:

```
Router# show dspfarm profile

Dspfarm Profile Configuration
Profile ID = 6, Service = TRANSCODING, Resource ID = 1
Profile Description :
Profile Service Mode : Non Secure
Profile Admin State : UP
Profile Operation State : ACTIVE
Application : SCCP Status : ASSOCIATED
Resource Provider : FLEX_DSPRM Status : UP
Number of Resource Configured : 4
Number of Resource Available : 4
Codec Configuration
Codec : g711ulaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g711alaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g729ar8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729abr8, Maximum Packetization Period : 60
Codec : g729br8, Maximum Packetization Period : 60
RSVP : ENABLED
TRP : FW-TRAVERSAL ENABLED
Dspfarm Profile Configuration
Profile ID = 27, Service = CONFERENCING, Resource ID = 2
Profile Description :
Profile Service Mode : Non Secure
Profile Admin State : UP
```



```

Profile Operation State : ACTIVE
Application : SCCP   Status : ASSOCIATED
Resource Provider : FLEX_DSPRM   Status : UP
Number of Resource Configured : 6
Number of Resource Available : 6
Codec Configuration
Codec : g711alaw, Maximum Packetization Period : 30
Codec : g729ar8, Maximum Packetization Period : 60
Dspfarm Profile Configuration
Profile ID = 34, Service = MTP, Resource ID = 1
Profile Description :
Profile Service Mode : secure
Profile Admin State : UP
Profile Operation State : ACTIVE
Application : SCCP   Status : ASSOCIATED
Resource Provider : NONE   Status : UP
Number of Resource Configured : 2
Number of Resource Available : 2
Hardware Configured Resources : 1
Hardware Available Resources : 1
Software Resources : 1
Codec Configuration
Codec : g711ulaw, Maximum Packetization Period : 30
TRP : FW-TRAVERSAL ENABLED

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 7: *show dspfarm profile* のフィールドの説明

フィールド	説明
Profile ID	プロファイル ID 番号を表示します。
Service	当該プロファイルに関連付けられているサービスを表示します。
Resource ID	Cisco CallManager への登録時に当該プロファイルに関連付けられた ID 番号を表示します。
Profile Description	当該プロファイルの説明を表示します。
Profile Service Mode	当該プロファイルサービスのステータスが、Secure (セキュア) または Non Secure (非セキュア) のいずれかで表示されます。
Profile Admin State	当該プロファイルのステータスを表示します。Profile Admin State が DOWN (停止中) と表示されている場合は、DSP ファーム プロファイル コンフィギュレーションモードで no shutdown コマンドを使用します。

フィールド	説明
Profile Operation State	<p>当該 DSP ファームプロファイルの Cisco CallManager での登録状況ステータスを表示します。ステータスのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACTIVE -- 当該プロファイルは Cisco Unified CallManager に登録済みです。 • ACTIVE IN PROGRESS -- 当該プロファイルはまだ Cisco Unified CallManager に登録中です。プロファイルの登録が完了するまで待ってください。 • DOWN -- 当該プロファイルは Cisco Unified CallManager に登録されていません。DSP ファームゲートウェイと Cisco Unified CallManager との接続を確認してください。 • DOWN IN PROGRESS -- 当該プロファイルは Cisco Unified CallManager から登録解除中であり、DSP リソースの割り当てを解除中です。 • RESOURCE ALLOCATED -- 当該プロファイルに DSP リソースを割り当て済み、または予約済みです。
Application	使用されているルーティングプロトコルを表示します。
Number of Resource Configured	1つのプロファイルでサポートできる最大セッション数。
Number of Resource Available	設定可能なリソースの合計数。
Hardware Configured Resources	当該プロファイルで設定されているセッション数。
Hardware Available Resources	当該プロファイルで使用可能なセッション数。
Software Resources	このプロファイルに設定されたソフトウェアセッションの数（MTP プロファイルにのみ該当）。
Codec Configuration	<p>設定されているコーデックが一覧表示されます。</p> <p>(注) Media Termination Point (MTP) プロファイルでは、各プロファイルごとに1つのコーデックのみがサポートされます。</p>
RSVP	当該プロファイルにおける Resource Reservation Protocol (RSVP) のサポート。

フィールド	説明
TRP	信頼されたリレーポイントでファイアウォールトラバーサルが有効になっているかどうかを表示します。

関連コマンド

コマンド	説明
dsp services dspfarm	指定した音声カードに対する DSP ファームサービスを設定します。
dspfarm profile	DSP ファームプロファイルコンフィギュレーションモードを開始し、DSP ファームサービス用のプロファイルを定義します。
show media resource status	現在のメディアリソースのステータスを表示します。

show dsp-group

デジタルシグナルプロセッサ（DSP）グループの情報（音声情報とビデオ情報を両方含む）を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show dsp-group** コマンドを使用します。

show dsp-group {all | slot *slot-number* | video [{all | slot *slot-number*}] | voice [{all | slot *slot-number*}]}

構文の説明

all	すべての DSP グループの DSP 情報を表示します。
slot	指定したスロットの DSP 情報を表示します。
<i>slot-number</i>	DSP グループで使用されるスロット。
video	ビデオリソースに関する情報を表示します。
voice	音声リソースに関する情報を表示します。

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するルータには、DSP リソースを提供する、デジタル T1/E1 パケット音声 トランク ネットワーク モジュール (NM-HDV)、高密度音声 (HDV) トランスコーディング/会議用 DSP ファーム (NM-HDV-FARM)、またはパケット音声データモジュール (PVDM) スロットが 1 つ以上搭載されている必要があります。

例

次に、**show dsp-group** コマンドの出力例をいくつかの形式で示します。フィールドは自明のため説明を省略します。

```
Router# show dsp-group all
DSP groups on slot 0:
dsp 1:
  State: UP, firmware: 28.0.103
  Max signal/voice channel: 32/32
  Max credits: 480, Voice credits: 0, Video credits: 480
  num_of_sig_chnls_allocated: 32
  Transcoding channels allocated: 0
  Group: FLEX_GROUP_VIDEO_POOL, complexity: FLEX
  Video Credits Max: 480, Share: 0, Reserved (rounded-up): 480
  Video Group: VIDEO_CONF, rsc id: 2, mode: VCONF_HETE
  Session: 0, maximum participants: 4
  Video Transcoding channels reserved credits: 480
  Video Transcoding channels allocated: 1
  Encoder: inactive, credit reserved: 480
```

```

Slot: 0
Device idx: 0
PVDM Slot: 0
Dsp Type: SP2600
dsp 2:
State: UP, firmware: 28.0.103
Max signal/voice channel: 32/32
Max credits: 480, Voice credits: 0, Video credits: 480
num_of_sig_chnls_allocated: 32
Transcoding channels allocated: 0
Group: FLEX_GROUP_VIDEO_POOL, complexity: FLEX
Video Credits Max: 480, Share: 0, Reserved (rounded-up): 480
Video Group: VIDEO_CONF, rsc id: 2, mode: VCONF_HETE
Session: 0, maximum participants: 4
Video Transcoding channels reserved credits: 480
Video Transcoding channels allocated: 3
Decoder: inactive, credits reserved: 160
Decoder: inactive, credits reserved: 160
Decoder: inactive, credits reserved: 160
Slot: 0
Device idx: 0
PVDM Slot: 0
Dsp Type: SP2600
DSP groups on slot 1:
This command is not applicable to slot 1
DSP groups on slot 2:
This command is not applicable to slot 2
DSP groups on slot 3:
This command is not applicable to slot 3

```

関連コマンド

コマンド	説明
dsp service dspfarm	指定した音声カードに対する DSP ファームサービスを設定します。
dspfarm (DSP farm)	DSP ファームサービスを有効化します。
voice service dsp-reservation	音声サービス用に予約する DSP リソースの割合を設定し、ビデオサービスが残りの DSP リソースを使用できるように設定します。 ビデオサービスを有効にするには、このコマンドが必須です。
voice-card	音声カード コンフィギュレーション モードを開始します。

show echo-cancel

T1/E1 マルチフレックス音声/WAN インターフェイスカードのエコーキャンセレーション情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show echo-cancel** コマンドを使用します。

show echo-cancel hardware status slot-number

構文の説明	hardware	ハードウェア アクセラレーションを使用している EC デバイスに関する情報を表示します。
	status	割り当てステータスを表示します。
	slot-number	インターフェイスカードのロット番号。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(24)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.4(24)T よりも前のリリースに導入されました。

使用上のガイドライン ハードウェアのエコーキャンセレーションは、ドーターカード (EC-MFT-32およびEC-MFT-64) が取り付けられているベースボード上の音声/WAN インターフェイスカード (VWIC) のみに制限され、その他の T1/E1 コントローラとは共有できません。

例 次に、**show echo-cancel hardware status** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show echo-cancel hardware status
ECAN CH  Assigned  DSP ID  VOICEPORT  EC  NLP  COV  LAW
-----
0         yes      8       1/0/0      on  off  on   u-Law
1         no       -       -          off on  on   u-Law
2         no       -       -          off on  on   u-Law
3         no       -       -          off on  on   u-Law
4         no       -       -          off on  on   u-Law
5         no       -       -          off on  on   u-Law
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 8: show echo-cancel のフィールドの説明

フィールド	説明
ECAN CH	指定したロットのすべてのチャンネル。
Assigned	割り当てられたチャンネルのステータス。
DSP ID	割り当てられたチャンネルのデジタルシグナルプロセッサ (DSP) 識別番号。

フィールド	説明
VOICEPORT	当該チャネルの音声ポート。
EC	割り当てられたチャネルのエコー キャンセレーション ステータス。
NLP	ノンリニアプロセッサ (NLP) のステータス。
COV	割り当てられたチャネルのエコー キャンセル カバレッジ ステータス。

show event-manager consumers

デバッグ目的でイベントマネージャの統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show event-manager consumers** コマンドを使用します。

show event-manager consumers

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、当該ゲートウェイを介した1つのコール（2つのコールレグ）を示しています。

```
Router# show event-manager consumers
Hash table indexed by AAA_UNIQUE_ID
Uid      Consumer_id  Consumer_hdl  evt_type
00000015 0002          65B35570     START
00000015 0002          65B35570     STOP
00000016 0002          65B34ECC     START
00000016 0002          65B34ECC     STOP
```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 9: show event-manager consumers のフィールドの説明

フィールド	説明
Uid	ユーザー ID。
Consumer_id	コンシューマクライアントプロセスの ID。
Consumer_hdl	コンシューマクライアントプロセスのハンドラ。
evt_type	イベントタイプ。

関連コマンド

コマンド	説明
show voice statistics csr interval accounting	間隔番号で指定したアカウンティング CSR をすべて表示します。
show voice statistics csr interval aggregation	間隔番号で指定したシグナリング CSR を表示します。

コマンド	説明
show voice statistics csr since-reset accounting	最後のリセット以降のすべてのアカウントリング CSR を表示します。
show voice statistics csr since-reset aggregation-level	最後のリセット以降のすべてのシグナリング CSR を表示します。
show voice statistics csr since-reset all	最後のリセット以降のすべての CSR を表示します。
show voice statistics interval-tag	設定済みの間隔番号を表示します。
show voice statistics memory-usage	現在のメモリ使用率を表示します。

show frame-relay vofr

Voice over Frame Relay (VoFR) データリンク接続識別子 (DLCI) で使用されている FRF.11 サブチャンネルに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show frame-relay vofr** コマンドを使用します。

show frame-relay vofr [*interface* [*dlci* [*cid*]]]

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>interface</i>	(任意) FRF.11 サブチャンネル情報を表示したいインターフェイスのタイプおよび番号を指定します。
	<i>dlci</i>	(任意) FRF.11 サブチャンネル情報を表示したいデータリンク接続識別子を指定します。
	<i>cid</i>	(任意) 情報を表示したいサブチャンネルを指定します。

コマンド デフォルト インターフェイスを指定せずにこのコマンドを入力した場合、当該ルータに設定されているすべての VoFR インターフェイスおよび DLCI の FRF.11 サブチャンネル情報が表示されます。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.0(4)T	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810 シリーズに導入されました。

例

次に、インターフェイスを指定しなかった場合のこのコマンドの出力例を示します。

```
Router# show frame-relay vofr
interface      vofr-type  dlci  cid  cid-type
Serial0/0.1   VoFR       16    4    data
Serial0/0.1   VoFR       16    5    call-control
Serial0/0.1   VoFR       16    10   voice
Serial0/1.1   VoFR cisco  17    4    data
```

次に、インターフェイスを指定した場合のこのコマンドの出力例を示します。

```
Router# show frame-relay vofr serial0
interface      vofr-type  dlci  cid  cid-type
Serial0        VoFR       16    4    data
Serial0        VoFR       16    5    call-control
Serial0        VoFR       16    10   voice
```

次に、インターフェイスおよび DLCI を指定した場合のこのコマンドの出力例を示します。

```
Router# show frame-relay vofr serial0 16
VoFR Configuration for interface Serial0
dlci vofr-type  cid cid-type          input-pkts  output-pkts  dropped-pkts
```

```

16 VoFR 4 data 0 0 0
16 VoFR 5 call-control 85982 86099 0
16 VoFR 10 voice 2172293 6370815 0

```

次に、インターフェイス、DLCI および CID を指定した場合のこのコマンドの出力例を示します。

```

Router# show frame-relay vofr serial0 16 10
VoFR Configuration for interface Serial0 dlci 16
  vofr-type VoFR cid 10 cid-type voice
  input-pkts 2172293 output-pkts 6370815 dropped-pkts 0

```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 10: show frame-relay vofr のフィールドの説明

フィールド	説明
interface	FRF.11 サブチャネルの監視用に選択されているインターフェイスの番号。
vofr-type	監視中の VoFR DLCI のタイプ。
CID	指名されたトラフィックタイプを伝送している指定の DLCI 部分。DLCI は 255 のサブチャネルに分割できます。
cid-type	このサブチャネルで伝送されるトラフィックのタイプ。
input-pkts	このサブチャネルが受信したパケット数。
output-pkts	このサブチャネルが送信したパケット数。
dropped-pkts	このサブチャネルによって破棄された合計パケット数。

関連コマンド

Command	Description
show call active voice	アクティブコールテーブルの内容を表示します。
show call history voice	コール履歴テーブルの内容を表示します。
show dial-peer voice	ダイヤルピアの設定情報とコール統計を表示します。
show frame-relay fragment	フレームリレーフラグメンテーションの詳細情報を表示します。
show frame-relay pvc	フレームリレーインターフェイス対応 PVC に関する統計情報を表示します。
show voice-port	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

show gatekeeper calls

ゲートキーパーが認識しているすべての進行中のコールのステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper calls** コマンドを使用します。

show gatekeeper calls [history]

構文の説明

history	(任意) 当該ゲートキーパーの内部エラーコードおよびコール履歴情報を表示します。このコマンドの出力で表示される切断されたコール数は、 call-history max-size number コマンドの number で指定した数です。この max-size の数値は、この情報の保存とレポートに要する CPU 使用率の削減に役立ちます。
----------------	--

コマンド デフォルト

このコマンドのデフォルト式を使用した場合、当該ゲートキーパーで検出されたすべてのアクティブコールに関する情報が表示されます。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(2)NA	このコマンドが導入されました。
12.0(3)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(3)T に統合されました。
12.0(5)T	このコマンドの出力が変更されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(4)T	このリリースは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400 ではサポートされていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.4(4)T	切断されたコールに関する履歴情報を表示するためのキーワード history が追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、特定の Multimedia Conference Manager (MCM) ゲートキーパーによって現在処理されているすべてのアクティブコールを表示できます。**clear h323 gatekeeper call** コマンドを使用して、特定の MCM ゲートキーパーに関連付けられた特定のコールまたはすべてのコールを強制的に切断した場合、システムはこのようなコールの情報を表示しません。

キーワード **history** を使用すると、**call-history max-size number** コマンドで指定されている切断されたコール数が表示されます。この **max-size** の数値は、この情報の保存とレポートに要する CPU 使用率の削減に役立ちます。

例

次に、アクティブコールを表示した出力例を示します。

```
Router# show gatekeeper calls
Total number of active calls = 1.
                GATEKEEPER CALL INFO
                =====
LocalCallID          Age(secs)    BW
12-3339              94           768 (Kbps)
  Endpt(s):Alias      E.164Addr    CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port
  src EP:epA          10.0.0.0     1720  10.0.0.0       1700
  dst EP:epB@zoneB.com
  src PX:pxA          10.0.0.0     1720  10.0.0.00      24999
  dst PX:pxB          255.255.255.0 1720  255.255.255.0  24999
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 11 : show gatekeeper calls のフィールドの説明

フィールド	説明
LocalCallID	コールの ID 番号。
Age(secs)	当該コールの経過時間 (秒単位)。
BW(Kbps)	使用中の帯域幅 (キロバイト/秒)。
Endpt	当該コール (発信元、ターゲットまたはプロキシ) 内の各エンドポイント (端末、ゲートウェイまたはプロキシ) の役割、およびコールシグナリングと RAS (登録、許可、状態) プロトコルのアドレス。
Alias	当該エンドポイントの H.323 識別子 (ID) または Email-ID。
E.164Addr	当該エンドポイントの E.164 アドレス。
CallSignalAddr	当該エンドポイントのコールシグナリング IP アドレス。
Port	当該エンドポイントのコールシグナリングポート番号。
RASSignalAddr	当該エンドポイントの RAS IP アドレス。
Port	当該エンドポイントの RAS ポート番号。

関連コマンド

コマンド	説明
clear h323 gatekeeper call	特定のゲートキーパーでアクティブな特定のコールまたはすべてのコールを強制的に切断します。

コマンド	説明
call history max	履歴テーブルに保存するレコード数を指定します。

show gatekeeper circuits

ゲートキーパーの回線情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper circuits** コマンドを使用します。

show gatekeeper circuits [{begin | exclude | include} *expression*]

構文の説明	
begin	(任意) <i>expression</i> を含む行から順に、すべての回線を表示します。
exclude	(任意) <i>expression</i> を含む回線を除いて、すべての回線を表示します。
include	(任意) <i>expression</i> を含む回線を含め、すべての回線を表示します。
<i>expression</i>	(任意) 表示する行を決めるために使用する単語または語句。

コマンドデフォルト すべての回線情報を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、当該ゲートキーパーに登録されている回線に関する現在の設定情報を表示できます。

例 次のコマンドでは、ゲートキーパーの回線情報が表示されています。

```
Router# show gatekeeper circuits
Circuit      Endpoint    Max Calls Avail Calls Resources      Zone
-----
CarrierA     Total Endpoints: 2
              3640-gw1    25         25         Available
              5400-gw1    23         19         Unavailable
CarrierB     Total Zones: 1
                                                    MsPacmanGK
```

下の表に、このコマンド出力で表示されるフィールドの説明を示します。

表 12: show gatekeeper circuits のフィールドの説明

フィールド	説明
Circuit	ゲートキーパーに接続されている各回線の名前。
Endpoint	各 H.323 エンドポイントの名前。
Max Calls	当該回線が処理できる最大コール数。

フィールド	説明
Avail Calls	当該回線が現時点で処理できる新しいコールの数。
Resources	当該回線のリソースが定義済みのしきい値制限を超えているかどうか。これらのしきい値を定義するには、 endpoint resource-threshold コマンドを使用します。
Zone	当該エンドポイントをサポートしているゾーン。ゾーンをエンドポイントに割り当てるには、 zone circuit-id コマンドを使用します。
Total Endpoints	当該回線でサポートされているエンドポイントの合計数。
Total Zones	当該回線でサポートされているゾーンの合計数。

関連コマンド

コマンド	説明
endpoint resource-threshold	ゲートキーパー内のゲートウェイのキャパシティしきい値を設定します。
zone circuit-id	キャリアにリモートゾーンを割り当てます。

show gatekeeper cluster

設定済みのゲートキーパークラスタの情報をすべて表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show gatekeeper cluster** コマンドを使用します。

show gatekeeper cluster

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.25	
12.1(5)XM	このコマンドが導入されました。
12.2(2)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(2)XB1 に統合され、Cisco AS5850 ルータに導入されました。

例

次に、**show gatekeeper cluster** コマンドの出力例を示します。フィールドの説明は自明のため省略します。

```
Router# show gatekeeper cluster
                CONFIGURED CLUSTERS
                =====
Cluster Name   Type      Local Zone  Elements  IP
-----
Cluster A     Local    AGK1       AGK2      192.168.200.254 1719
              Local    AGK1       AGK3      192.168.200.223 1719
Cluster B     Remote   BGK1       BGK1      192.168.200.257 1719
              Remote   BGK2       BGK2      192.168.200.258 1719
              Remote   BGK3       BGK3      192.168.200.259 1719
```

関連コマンド

コマンド	説明
show gatekeeper endpoints	ゲートキーパーのすべての登録エンドポイントのステータスを表示します。
show gatekeeper performance stats	ゲートキーパー別メッセージのパフォーマンス統計を表示します。
show gatekeeper zone cluster	すべてのローカルクラスタのダイナミックステータスを表示します。

show gatekeeper endpoint circuits

ゲートキーパーに登録されたすべてのエンドポイントとキャリア、またはトランクグループに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper endpoint circuits** コマンドを使用します。

show gatekeeper endpoint circuits [**{begin | exclude | include}** *expression*]

構文の説明		
begin	(任意) <i>expression</i> を含む行から順に、すべての回線を表示します。	
exclude	(任意) <i>expression</i> を含む行を除いて、すべての回線を表示します。	
include	(任意) <i>expression</i> を含む行を含めて、すべての回線を表示します。	
<i>expression</i>	(任意) 表示する行を決めるために使用する単語または語句。	

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(2)NA	このコマンドが導入されました。
	12.0(5)T	H.323 バージョン 2 での表示形式が変更されました。
	12.2(11)T	表示形式が変更され、E.164ID、キャリアとトランクグループのデータ、アクティブコールの合計数が表示されるようになりました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、当該ゲートキーパーに登録されているエンドポイントおよびキャリアに関する現在の設定情報を表示できます。任意のキーワードの前にはパイプ文字 (|) を入力する必要がある点に注意してください。

例 次のコマンドでは、ゲートキーパーの回線情報が表示されています。

```
Router# show gatekeeper endpoint circuits
          GATEKEEPER ENDPOINT REGISTRATION
          =====
CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port  Zone Name          Type  Flags
-----
172.18.195.120  1720  172.18.195.120  51059 LavenderGK         VOIP-GW
      E164-ID: 4081234
      H323-ID: 3640-gw1
      Carrier: CarrierA, Max Calls: 25, Available: 25
172.18.197.143  1720  172.18.197.143  57071 LavenderGK         VOIP-GW
      H323-ID: 5400-gw1
      Carrier: CarrierB, Max Calls: 23, Available: 19
      Carrier: CarrierA, Max Calls: 25, Available: 25
Total number of active registrations = 2
```

下の表に、このコマンド出力で表示されるフィールドの説明を示します。

表 13: show gatekeeper endpoint circuits の各フィールド

フィールド	説明
CallSignalAddr	当該エンドポイントのコールシグナリングIPアドレス。このエンドポイントがエイリアスでも登録されている場合、その下の行にエンドポイントに対して登録されているすべてのエイリアスの一覧が表示されます。
Port	当該エンドポイントのコールシグナリングポート番号。
RASSignalAddr	当該エンドポイントの RAS IP アドレス。
Port	当該エンドポイントの RAS ポート番号。
Zone Name	当該エンドポイントで登録されているゾーン名 (ゲートキーパー ID)。
Type	エンドポイントのタイプ (端末、ゲートウェイ、MCU など)。
Flags	S -- エンドポイントが RAS メッセージを介して動的に登録されておらず、 alias コマンドによって静的に入力されています。 O -- エンドポイントのゲートウェイから、ほぼリソース不足状態にある旨の通知が送信されました。
E164-ID	当該エンドポイントの E.164 ID。
H323-ID	当該エンドポイントの H.323 ID。
Carrier	当該エンドポイントに関連付けられているキャリア。
Max Calls	当該回線が処理できるコールの最大数。
Available	当該回線が現在処理できる新しいコールの数。

関連コマンド

コマンド	説明
endpoint circuit-id h323id	シスコ製以外のエンドポイントに回線を割り当てます。
endpoint resource-threshold	ゲートキーパー内のゲートウェイのキャパシティしきい値を設定します。
zone circuit-id	リモートゾーンに回線を割り当てます。

show gatekeeper endpoints

ゲートキーパーに登録されているすべてのエンドポイントのステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper endpoints** コマンドを使用します。

show gatekeeper endpoints [alternates]

構文の説明	alternates	(任意) 代替エンドポイントに関する情報を表示します。また、このコマンドに通常含まれる情報もすべて表示されます。
-------	-------------------	--

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(2)NA	このコマンドが導入されました。
	12.0(5)T	H.323 バージョン 2 での表示形式が変更されました。
	12.1(5)XM	alternates キーワードが追加されました。
	12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
	12.2(2)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
	12.2(4)T	このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 ではサポートされていません。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。出力表示に、登録数値およびコールキャパシティ値が追加されました。
	12.3(1)	このコマンドが変更され、エンドポイントの同時コールが反映されるようになりました。

例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show gatekeeper endpoints
CallsignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port  Zone Name  Type  F
-----
172.21.127.8    1720  172.21.127.8   24999  sj-gk      MCU
H323-ID:joe@cisco.com
      Voice Capacity Max.=23  Avail.=23
      Total number of active registrations = 1
172.21.13.88   1720  172.21.13.88   1719   sj-gk      VOIP-GW  0   H323-ID:la-gw
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 14 : show gatekeeper endpoints のフィールドの説明

フィールド	説明
CallSignalAddr	当該エンドポイントのコールシグナリング IP アドレス。このエンドポイントがエイリアス（または複数のエイリアス）でも登録されている場合、その下の行にエンドポイントに対して登録されているすべてのエイリアスの一覧が表示されます。
Port	当該エンドポイントのコールシグナリングポート番号。
RASSignalAddr	エンドポイントの RAS（登録、許可、状態）プロトコル IP アドレス。
Port	当該エンドポイントの RAS ポート番号。
Zone Name	このエンドポイントの登録先ゾーン名（ゲートキーパー識別子（ID））。
Type	エンドポイントのタイプ（端末、ゲートウェイ、マルチポイントコントロールユニット（MCU）など）。
F	S -- エンドポイントが RAS メッセージを介して動的に登録されておらず、 alias コマンドによって静的に入力されています。O -- エンドポイントのゲートウェイから、ほぼリソース不足状態にある旨の通知が送信されました。
Voice Capacity Max.	当該エンドポイントで使用可能な最大チャネル数。
Avail.	当該エンドポイントで現在使用可能なチャネル数。
Total number of active registrations	当該ゲートキーパーに登録されているエンドポイントの合計数。

次の例では、**show gatekeeper endpoints** の出力が変更されて当該エンドポイントの同時コールが反映されています。エンドポイントからキャパシティの報告がなく、**endpoint max-calls h323id** コマンドが設定されていない場合、「Voice Capacity Max.」および「Avail.」は表示されません。「Current.=2」は、当該エンドポイントに現在アクティブコールが 2 つあることを示しています。

```
Router# show gatekeeper endpoints
!
                        GATEKEEPER ENDPOINT REGISTRATION
                        =====
CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port  Zone Name          Type  Flags
-----
172.18.200.27   1720  172.18.200.27  49918  GK-1                VOIP-GW
H323-ID:GW1
Voice Capacity Max.= Avail.= Current.= 2
```

エンドポイントからキャパシティの報告があるものの、**endpoint max-calls h323id** コマンドが設定されていない場合、「Voice Capacity Max.」および「Avail.」には、当該エンドポイントの報告されたコールキャパシティが次のように表示されます。

```
Router# show gatekeeper endpoints
!
                        GATEKEEPER ENDPOINT REGISTRATION
                        =====
CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port  Zone Name          Type  Flags
-----
172.18.200.29  1720  172.18.200.29  53152  GK-2              VOIP-GW
      H323-ID:GW2
      Voice Capacity Max.= 23 Avail.= 22 Current.= 1
```

エンドポイントからキャパシティの報告があるものの、**endpoint max-calls h323id** コマンドが設定されていない場合、「Voice Capacity Max.」には当該エンドポイントに設定された最大コール数が表示され、「Avail.」には当該エンドポイントで使用可能なコール数が表示されます。この例では、「Voice Capacity Max.= 10」は、当該エンドポイントに設定されている最大コール数が 10 であることを示しています。「Avail.= 2」は、当該エンドポイントで現在使用可能なコールが 2 つあることを示しています。「Current.= 8」は、当該エンドポイントに現在アクティブコールが 8 つあることを示しています。

```
Router# show gatekeeper endpoints
!
                        GATEKEEPER ENDPOINT REGISTRATION
                        =====
CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port  Zone Name          Type  Flags
-----
172.18.200.27  1720  172.18.200.27  49918  GK-1              VOIP-GW
      H323-ID:GW1
      Voice Capacity Max.= 10 Avail.= 2 Current.= 8
```

下の表に、各出力例で表示されている重要なフィールドの説明を示します。

表 15: show gatekeeper endpoints のフィールドの説明

フィールド	説明
CallSignalAddr	当該エンドポイントのコールシグナリング IP アドレス。このエンドポイントがエイリアス（または複数のエイリアス）でも登録されている場合、その下の行にエンドポイントに対して登録されているすべてのエイリアスの一覧が表示されます。
Port	当該エンドポイントのコールシグナリングポート番号。
RASSignalAddr	エンドポイントの RAS（登録、許可、状態）プロトコル IP アドレス。
Port	当該エンドポイントの RAS ポート番号。
Zone Name	このエンドポイントの登録先ゾーン名（ゲートキーパー ID）。
Type	エンドポイントのタイプ（端末、ゲートウェイ、マルチポイントコントロールユニット（MCU）など）。

フィールド	説明
Flags	S -- エンドポイントが RAS メッセージを介して動的に登録されておらず、 alias コマンドによって静的に入力されています。O--エンドポイントのゲートウェイから、ほぼリソース不足状態にある旨の通知が送信されました。

関連コマンド

Command	Description
endpoint resource-threshold	ゲートキーパー内のゲートウェイのキャパシティしきい値を設定します。
show gatekeeper endpoint circuits	エンドポイントおよびキャリアまたはトランクグループのコールキャパシティを表示します。
show gatekeeper gw-type-prefix	ゲートウェイのテクノロジープレフィクステーブルを表示します。
show gatekeeper zone status	ゲートキーパーに関連する各ゾーンの状態を表示します。
show gateway	現在のゲートウェイの状態を表示します。

show gatekeeper gw-type-prefix

ゲートウェイテクノロジープレフィックステーブルを表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper gw-type-prefix** コマンドを使用します。

show gatekeeper gw-type-prefix

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(2)NA	このコマンドが導入されました。
12.0(5)T	H.323 バージョン 2 での表示形式が変更されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(4)T	このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 ではサポートされていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

例

次の例は、2つのローカルゾーン sj-gk および la-gk を制御するゲートキーパーに対して、このコマンドを実行した場合の出力例です。

```
Router# show gatekeeper gw-type-prefix
GATEWAY TYPE PREFIX TABLE
=====
Prefix:12#*      (Default gateway-technology)
  Zone sj-gk master gateway list:
    10.0.0.0:1720 sj-gw1
    10.0.0.0:1720 sj-gw2 (out-of-resources)
    10.0.0.0:1720 sj-gw3
  Zone sj-gk prefix 408..... priority gateway list(s):
  Priority 10:
    10.0.0.0:1720 sj-gw1
  Priority 5:
    10.0.0.0:1720 sj-gw2 (out-of-resources)
    10.0.0.0:1720 sj-gw3
Prefix:7#*      (Hopoff zone la-gk)
  Statically-configured gateways (not necessarily currently registered):
    10.0.0.0:1720
    10.0.0.0:1720
  Zone la-gk master gateway list:
    10.0.0.0:1720 la-gw1
    10.0.0.0:1720 la-gw2
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 16 : show gatekeeper gw-type-prefix のフィールドの説明

フィールド	説明
Prefix	gw-type-prefix コマンドで定義されたテクノロジープレフィックス。
Zone sj-gk master gateway list	ゾーン sj-gk に登録されているすべてのゲートウェイが、テクノロジープレフィックスの下に一覧表示されます。（この例は、テクノロジープレフィックス 12# を使用してゲートウェイ sj-gw1、sj-gw2 および sj-gw3 がゾーン sj-gk に登録されていることを示しています。）
Zone sj-gk prefix 408..... priority gateway list(s)	市外局番 408 へのコールを処理するよう優先順位付けられているゲートウェイの一覧。
Priority 10	最高の優先順位。「Priority 10」の下に一覧表示されているゲートウェイには、特定の市外局番へのコールにサービス提供するゲートウェイを選択する際に最も高い優先順位がつけられます。（この例では、ゲートウェイ sj-gw1 に、市外局番 408 へのコールを処理する最も高い優先順位がつけられています。）
Priority 5	優先順位が割り当てられていないゲートウェイの優先順位は、デフォルト値である 5 に設定されます。
(out-of-resources)	表示されたゲートウェイから「リソース不足」通知が送信されたことを示します。
(Hopoff zone la-gk)	このテクノロジープレフィックスを指定しているコールはすべて、着信番号の市外局番にかかわらず、la-gk ゾーンでホップオフするよう転送する必要があります。（この例では、テクノロジープレフィックス 7# を指定しているコールは、宛先アドレスの実際のゾーンプレフィックスにかかわらず、常にゾーン la-gk にルーティングされます。）
Zone sj-gk master gateway list	ゾーン la-gk に登録されているすべてのゲートウェイが、テクノロジープレフィックスの下に一覧表示されます。（この例は、テクノロジープレフィックス 7# を使用してゲートウェイ la-gw1 および la-gw2 がゾーン la-gk に登録されていることを示しています。ゾーン la-gk では優先順位リストが定義されていないため、ここには優先順位リストが表示されていません。）
(Default gateway-technology)	着信番号でゲートウェイタイプのプレフィックスが指定されていない場合、そのコールでは 12# で登録されているゲートウェイタイプがデフォルトとして使用されます。
Statically-configured gateways	登録時にテクノロジープレフィックス情報を提供できないゲートウェイの IP アドレスおよびポート番号がすべて一覧表示されます。この例では、ゲートウェイ 1.1.1.1:1720 およびゲートウェイ 2.2.2.2:1720 が登録時にタイプ 7# と見なされていることを示しています。

関連コマンド

Command	Description
show gatekeeper calls	ゲートキーパーが認識しているすべての進行中のコールのステータスを表示します。
show gatekeeper endpoints	ゲートキーパーのすべての登録エンドポイントのステータスを表示します。
show gateway	現在のゲートウェイのステータスを表示します。

show gatekeeper performance statistics

ゲートキーパー別メッセージのパフォーマンス統計情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show gatekeeper performance stats** コマンドを使用します。

show gatekeeper performance statistics [zone [name zone-name]] [cumulative]

構文の説明	zone	(任意) 当該ゲートキーパーのゾーン統計を表示します。
	name zone -name	(任意) ゾーン名またはゲートキーパー名を指定します。
	cumulative	(任意) 前回リロード以降に当該ゲートキーパーで収集された合計統計を表示します。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(5)XM	このコマンドが導入されました。
	12.2(2)T1	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(15)T	このコマンドが変更されました。キーワード zone 、 name 、および cumulative が追加され、引数 zone-name が追加されました。
	12.4(5)	このコマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、次のカウンタが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • ARQ アクセスリスト拒否が原因で送信された自動拒否 (ARJ)。 • LRQ アクセスリスト拒否が原因で送信されたロケーション拒否 (LRJ)。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、各コール、登録、他のゲートキーパーにルーティングされたコール、およびゾーン処理を介して使用されたコールに関する統計を表示できます。

キーワード **cumulative** および **zone name** を併用すると、当該ゲートキーパーの開始時刻から収集された、指定したゾーンに関する合計統計が表示されます。これらの値は、**clear h323 gatekeeper stats** コマンドを使用してもリセットされません。

このコマンドでは、当該ルータに関連する統計データが表示されます。次の各メッセージをもとに、コール開始イベントの数を特定できます。

- 自動再送要求 (ARQ)
- アドミッション確認 (ACF)

- アドミッション拒否 (ARJ)

次を使用すると、当該ルータ上で要求されたエンドポイント コンタクト イベントのうち、確認または拒否されたイベントを特定できます。

- ロケーション要求 (LRQ)
- ロケーション確認 (LCF)
- ロケーション拒否 (LRJ)

さらに、オーバーロードに関連する各種カウントと、オーバーロード状態に関連する代替ゲートキーパーに送信されたエンドポイント数も表示されます。これらのカウンタには、ルータがオーバーロード状態になった場合にのみ、ゼロ以外の値が表示されます。表示されるエンドポイントの実数は、このルータプラットフォームに登録されているエンドポイントの数のみを示しています。タイムスタンプは、各カウンタにおけるデータキャプチャの開始時刻を示しています。新たに開始時刻を指定したい場合は、**clear h323 gatekeeper stats** コマンドを入力します。各カウンタがリセットされ、新しい開始時刻に合わせてタイムスタンプが更新されます。

次のメッセージをもとに、当該ルータ上で要求されたリモート ゲートキーパー コンタクトのうち、確認または拒否された要求を特定できます。

- ロケーション確認 (LCF)
- ロケーション拒否 (LRJ)
- ロケーション要求 (LRQ)

次のメッセージをもとに、ゾーン 別またはゲートキーパー別の登録統計を特定できます。

- 登録確認 (RCF)
- 登録拒否 (RRJ)
- 登録要求 (RRQ)

次のメッセージをもとに、ゾーン別またはゲートキーパー別の登録解除統計を特定できます。

- 登録解除確認 (UCF)
- 登録解除拒否 (URJ)
- 登録解除要求 (URQ)

例

次に、**show gatekeeper performance stats** コマンドの基本的な出力例を示します。この基本出力では、**clear h323 gatekeeper stats** コマンドでカウンタがリセットされたことを示し、出力には前回のリセット以降の統計情報が表示されています。

```
Router# show gatekeeper performance stats
-----Gatekeeper Performance Statistics-----
Performance statistics captured since: 20:09:00 UTC Thu Sep 15 2005
Gatekeeper level Admission Statistics:
```

```

ARQs received: 1
ARQs received from originating endpoints: 0
ACFs sent: 1
ACFs sent to the originating endpoint: 0
ARJs sent: 0
ARJs sent to the originating endpoint: 0
ARJs sent due to overload: 0
ARJs sent due to ARQ access-list denial: 0
Number of concurrent calls: 0
Number of concurrent originating calls: 0
Gatekeeper level Location Statistics:
LRQs received: 3
LRQs sent: 0
LCFs received: 0
LCFs sent: 1
LRJs received: 0
LRJs sent: 2
LRJs sent due to overload: 0
LRJs sent due to LRQ access-list denial: 2
Gatekeeper level Registration Statistics:
RRJ due to overload: 0
Total Registered Endpoints: 2
Gatekeeper level Disengage Statistics:
DRQs received: 1
DRQs sent: 0
DCFs received: 0
DCFs sent: 1
DRJs received: 0
DRJs sent: 0
Gatekeeper viazone message counters:
inARQ: 0
infwdARQ: 0
inerrARQ: 0
inLRQ: 0
infwdLRQ: 0
inerrLRQ: 0
outLRQ: 0
outfwdLRQ: 0
outerrLRQ: 0
outARQ: 0
outfwdARQ: 0
outerrARQ: 0
Load balancing events: 0

```

次に、**show gatekeeper performance stats** コマンドによる累計出力例を示します。この累計出力では、カウンタがリセットされていないことを示し、出力にはゲートキーパーの開始時刻以降の統計情報が表示されています。

```

Router# show gatekeeper performance stats zone name voip3-2600-2
Performance statistics for zone voip3-2600-2
-----Zone Level Performance Statistics-----
Performance statistics captured since: 00:17:00 UTC Mon Mar 1 1993
Zone level Admission Statistics:
ARQs received: 1
ARQs received from originating endpoints: 0
ACFs sent: 1
ACFs sent to the originating endpoint: 0
ARJs sent: 0
ARJs sent to the originating endpoint: 0
Number of concurrent total calls: 0
Number of concurrent originating calls: 0
Zone level Location Statistics:
LRQs received: 1

```

show gatekeeper performance statistics

```

LRQs sent: 0
LCFs received: 0
LCFs sent: 1
LRJs received: 0
LRJs sent: 0
Zone level Registration Statistics:
  Full RRQs received: 1
  Light RRQs received: 574
  RCFs sent: 576
  RRJs sent: 0
  Total Registered Endpoints: 1
Zone level UnRegistration Statistics:
  URQs received: 0
  URQs sent: 0
  UCFs received: 0
  UCFs sent: 0
  URJs received: 0
  URJs sent: 0
  URQs sent due to timeout: 0
Zone level Disengage Statistics:
  DRQs received: 1
  DRQs sent: 0
  DCFs received: 0
  DCFs sent: 1
  DRJs received: 0
  DRJs sent: 0

```

下の表は、このコマンド出力で表示される重要なフィールドについて説明したものです。ほとんどのフィールドは自明のため、この表には説明を記載しません。

表 17: *show gatekeeper performance statistics* のフィールドの説明

フィールド	説明
Full RRQs received	完全な登録要求 (RRQ) には、成功した各登録で使用されているすべての登録情報が含まれています。
Light RRQs received	Light RRQ には、既存の登録を維持するために使用される省略版の登録情報が含まれています。

関連コマンド

コマンド	説明
clear h323 gatekeeper stats	ゲートキーパーのパフォーマンスに関する統計をクリアします。

show gatekeeper servers

現在ゲートキーパールータに登録され、静的に設定されている各トリガーを一覧表示するには、EXEC モードで **show gatekeeper servers** コマンドを使用します。

show gatekeeper servers [*gkid*]

構文の説明

<i>gkid</i>	(任意) このトリガーが適用されているローカルゲートキーパー名。
-------------	----------------------------------

コマンドモード

EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	このコマンドが Cisco 2500 シリーズ、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200、Cisco MC3810 に導入されました。
12.2(2)XB	このコマンドの出力が変更され、追加のサーバー統計が表示されるようになりました。この追加のサーバー統計には、ゲートキーパーサーバーのタイムアウト値、インストールされている Gatekeeper Transaction Message Protocol (GKTMP) バージョン、受信した登録要求 (RRQ) メッセージ、登録応答 (RRQ) メッセージ、応答確認 (RCF) メッセージおよび応答拒否 (RRJ) メッセージの数、発生したタイムアウト数、平均応答時間、ならびにサーバーが使用可能かが含まれます。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco 3700 シリーズに導入されました。
12.2(15)T12	このコマンドが変更され、追加のサーバー統計が表示されるようになりました。
12.3(8)T	このコマンドが変更され、追加のサーバー統計が表示されるようになりました。
12.3(9)	このコマンドが変更され、追加のサーバー統計が表示されるようになりました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、このゲートキーパー上のすべてのサーバートリガーを（外部サーバーで動的に登録されたか、コマンドラインインターフェイスで静的に設定されたかにかかわらず）表示できます。ゲートキーパー ID を指定した場合、指定したゲートキーパーゾーンに適用されるトリガーのみが表示されます。ゲートキーパー ID を指定しなかった場合、このゲートキーパー上のすべてのローカルゾーンに適用されているサーバートリガーが表示されます。

例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show gatekeeper servers
GATEKEEPER SERVERS STATUS
=====
Gatekeeper Server listening port: 8250
Gatekeeper Server timeout value: 30 (100ms)
```

```

GateKeeper GKTMP version: 4.1
Gatekeeper-ID: Gatekeeper1
-----
RRQ Priority: 5
Server-ID: Server43
Server IP address: 209.165.200.254:40118
Server type: dynamically registered
Connection Status: active
Trigger Information:
Trigger unconditionally
Server Statistics:
REQUEST RRQ Sent=0
RESPONSE RRQ Received = 0
RESPONSE RCF Received = 0
RESPONSE RRJ Received = 0
Average response time(ms)=0
Server Usable=TRUE
Timeout Statistics:
Server-ID: Server43
Server IP address: 209.165.200.254:40118
Server type: dynamically registered
Connection Status: active
Timeout Encountered=0

```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 18: show gatekeeper servers のフィールドの説明

フィールド	説明
GateKeeper GKTMP version	インストールされている Gatekeeper Transaction Message Protocol のバージョン。
RRQ Priority	登録優先順位。
Server-ID	サーバー ID 名。
Server IP address	サーバーの IP アドレス。
Server type	サーバーのタイプ。
Connection Status	接続がアクティブか非アクティブか。
Trigger Information	Cisco IOS ゲートキーパーが外部アプリケーションに対してどの RAS (登録、許可、状態) メッセージを転送するか。
REQUEST RRQ	受信した登録要求。
RESPONSE RRQ	受信した登録応答。
RESPONSE RCF	受信した応答確認。
RESPONSE RRJ	受信した応答拒否メッセージ。

関連コマンド

コマンド	説明
debug gatekeeper server	Cisco IOS ゲートキーパーと外部アプリケーション間のすべてのメッセージ交換をトレースします。
endpoint circuit-id h323id	ゲートキーパーのコールキャパシティ情報をトラックします。
server registration-port	ゲートキーパーでサーバー登録用のリスニングポートを設定します。
server trigger arq	ゲートキーパーで静的トリガーを設定します。

show gatekeeper status

認可、認証ステータスおよびゾーンステータスを含む、全体的なゲートキーパーステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper status** コマンドを使用します。

show gatekeeper status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(2)NA	このコマンドが導入されました。
12.0(3)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(3)T に統合されました。
12.1(5)XM	このコマンドは、ロードバランシングおよびベンダー固有属性に関する情報を表示するように変更されました。
12.2(2)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XB	このコマンドは、サーバフロー制御に関する情報を表示するように変更されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。

例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show gatekeeper status
Gatekeeper State: UP
  Load Balancing:   DISABLED
  Flow Control:    ENABLED
  Zone Name:       snet-3660-3
  Accounting:      DISABLED
  Endpoint Throttling:  DISABLED
  Security:        DISABLED
  Maximum Remote Bandwidth: unlimited
  Current Remote Bandwidth: 0 kbps
  Current Remote Bandwidth (w/ Alt GKs): 0 kbps
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 19: show gatekeeper status のフィールドの説明

フィールド	説明
Gatekeeper State	Gatekeeper State には次の値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • UP は、動作中を意味します。 • DOWN は、管理上シャットダウンされている状態を意味します。 • INACTIVE は、管理上有効化されていることを意味します。つまり、no shutdown コマンドが実行済みである一方で、ローカルゾーンが設定されていない状態です。 • HSRP STANDBY は、ゲートキーパーがホットスタンバイ状態にあり、現在アクティブなゲートキーパーに障害が発生した際に引き継ぐ準備ができていることを示します。
Load Balancing	ロードバランシングが有効化されているかどうかを示します。
Flow Control	サーバースロー制御が有効化されているかどうかを示します。
Zone Name	ゲートキーパーが属するゾーン名。
Accounting	認可機能およびアカウントリング機能が有効化されているかどうかを示します。
Endpoint Throttling	エンドポイントスロットリングが有効化されているかどうかを示します。
Security	セキュリティ機能が有効化されているかどうかを示します。
Bandwidth	最大リモート帯域幅、現在のリモート帯域幅、および代替ゲートキーパーの現在のリモート帯域幅。

関連コマンド

コマンド	説明
show gatekeeper servers	指定したゲートキーパーに関する統計を表示します。

show gatekeeper status cluster

使用メモリ量、アクティブコール数、各要素に登録されているエンドポイント数など、ローカルクラスタ内の各要素に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper status cluster** コマンドを使用します。

show gatekeeper status cluster

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(5)XM1	このコマンドが導入されました。
12.2(2)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。

例

次のコマンドは、ローカルクラスタ内の各要素に関する情報を表示したものであり、2つのコンポーネント **RoseGK** および **LavenderGK** が表示されています。

```
Router# show gatekeeper status cluster
          CLUSTER INFORMATION
          =====
          Active      Endpoint      Last
          Calls      Count      Announce
-----
RoseGK      72         0           1   Local Host
LavenderGK  30         1           0           4           14s
```

関連コマンド

コマンド	説明
show gatekeeper endpoints	ゲートキーパーのすべての登録エンドポイントのステータスを表示します。
show gatekeeper performance statistics	承認されたコール数と拒否されたコール数に関する情報を表示し、他のゲートキーパーに送信されたエンドポイントの数を検出します。
show gatekeeper zone cluster	すべてのローカルクラスタのダイナミックステータスを表示します。

show gatekeeper zone cluster

すべてのローカルクラスタの動的ステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper zone cluster** コマンドを使用します。

show gatekeeper zone cluster

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(5)XM1	このコマンドが導入されました。
12.2(2)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。

例

次のコマンドでは、現在の帯域幅の値、および代替ゲートキーパーからの最後の通知メッセージをいつ受信したかに関する情報が表示されています。この例の PRI は、代替ゲートキーパーに割り当てられた優先順位を示します。このフィールドの範囲は 0 ~ 127 で、127 が最も低い優先順位を表します。

```
Router# show gatekeeper zone cluster
LOCAL CLUSTER INFORMATION,6t
=====
LOCAL GK NAME  ALT GK NAME  PRI  TOT BW  INT BW  REM BW  LAST ANNOUNCE  ALT GK STATUS
-----
ParisGK        GenevaGK     120  0        0        0        7s          CONNECTED
NiceGK         ZurichGK    100  0        0        0        7s          CONNECTED
```

関連コマンド

コマンド	説明
timer cluster -element announce	ローカルクラスタの要素間で交換される、連続したアナウンスメッセージの時間間隔を定義します。
zone cluster local	ゲートキーパーのローカルグループ化を定義します。
zone remote	DNSの使用が不可の場合または望ましくない場合に、リモートゾーンを静的に指定します。

show gatekeeper zone prefix

ゾーンプレフィックステーブルを表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper zone prefix** コマンドを使用します。

show gatekeeper zone prefix [all]

構文の説明	all (任意) 各ゲートウェイによって登録された動的ゾーンプレフィックスを表示します。
-------	---

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(2)NA	このコマンドが導入されました。
	12.2(15)T	all キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン キーワード **all** を指定しなかった場合、このコマンドでは静的ゾーンプレフィックスのみが表示されます。特定のゲートウェイに関連付けられたプレフィックスを表示するには、キーワード **all** を指定して **include** フィルタを使用します。たとえば、**show gatekeeper zone prefix all | include GW1** コマンドでは、ゲートウェイ GW1 に関連付けられた動的プレフィックスが表示されます。

例 次のコマンドでは、当該ゲートキーパーのゾーンプレフィックステーブルが表示されます。

```
Router# show gatekeeper zone prefix
      ZONE PREFIX TABLE
      =====
GK-NAME          E164-PREFIX
-----          -
gk2              408*
gk2              5551001*
gk2              5551002*
gk2              5553020*
gk2              5553020*
gk1              555...
gk2              719*
gk2              919*
```

次のコマンドでは、当該ゲートキーパーの動的ゾーンプレフィックスを含むゾーンプレフィックステーブルが表示されます。

```
Router# show gatekeeper zone prefix all
      ZONE PREFIX TABLE
      =====
GK-NAME          E164-PREFIX          Dynamic GW-priority
-----          -
gk2              408*
gk2              5551001*          GW1 /5
```

```

gk2          5551002*          GW1 /5 GW2 /10
gk2          5553020*          GW1 /8
gk2          5553020*
gk1          555....
gk2          719*
gk2          919*             GW2 /5

```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 20 : show gatekeeper zone prefix のフィールドの説明

フィールド	説明
GK-NAME	ゲートキーパー名。
E164-PREFIX	E.164 プレフィックスおよびドット。各ドットは、電話番号の残りの各桁に一致するワイルドカードとして機能します。
Dynamic GW-priority	この E164 プレフィックスを処理するゲートウェイ。 ゲートウェイの優先順位。値が 0 の場合、ゲートキーパーは当該プレフィックスの処理にゲートウェイを使用できません。値が 10 の場合、当該ゲートウェイが最高優先順位に設定されています。動的ゲートウェイのデフォルト優先順位値は 5 です。

関連コマンド

コマンド	説明
show gatekeeper zone cluster	すべてのローカルクラスタのダイナミックステータスを表示します。

show gatekeeper zone status

ゲートキーパーに関連するゾーンのステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show gatekeeper zone status** コマンドを使用します。

show gatekeeper zone status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(2)NA	このコマンドが導入されました。
12.0(5)T	H.323 バージョン 2 での表示形式が変更されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(4)T	このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 ではサポートされていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show gatekeeper zone status
          GATEKEEPER ZONES
          =====
GK name      Domain Name  RAS Address      PORT  FLAGS  MAX-BW  CUR-BW
-----      -
sj.xyz.com   xyz.com       10.0.0.0         1719  LS     0        0
SUBNET ATTRIBUTES :
  All Other Subnets : (Enabled)
PROXY USAGE CONFIGURATION :
  inbound Calls from germany.xyz.com :
    to terminals in local zone sj.xyz.com :use proxy
    to gateways in local zone sj.xyz.com  :do not use proxy
  Outbound Calls to germany.xyz.com
    from terminals in local zone germany.xyz.com :use proxy
    from gateways in local zone germany.xyz.com  :do not use proxy
  Inbound Calls from all other zones :
    to terminals in local zone sj.xyz.com :use proxy
    to gateways in local zone sj.xyz.com  :do not use proxy
  Outbound Calls to all other zones :
    from terminals in local zone sj.xyz.com :do not use proxy
    from gateways in local zone sj.xyz.com  :do not use proxy
tokyo.xyz.co xyz.com       10.0.0.0         1719  RS     0        0
milan.xyz.co xyz.com       10.0.0.0         1719  RS     0        0
```


下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 21 : *show gatekeeper zone status* のフィールドの説明

フィールド	説明
GK name	ゲートキーパー名（ゾーン名とも呼ばれます）。出力表示では、12 文字を超えるとそれ以降の文字が切り捨てられます。
Domain Name	ゲートキーパーが関連付けられているドメイン。
RAS Address	ゲートキーパーの RAS（登録、許可、状態）プロトコルアドレス。
FLAGS	次の情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • S=静的（CLI で設定され、DNS で検出されない） • L = ローカル • R = リモート
MAX-BW	ゾーンの最大帯域幅（kbps 単位）。
CUR-BW	現在使用されている帯域幅（kbps 単位）。
SUBNET ATTRIBUTES	ローカルゲートキーパーによって制御されるサブネットのリスト。
PROXY USAGE CONFIGURATION	ローカルゲートキーパー（またはゾーン）に設定されたインバウンドプロキシポリシーおよびアウトバウンドプロキシポリシー。

関連コマンド

コマンド	説明
show gatekeeper calls	ゲートキーパーが認識しているすべての進行中のコールのステータスを表示します。
show gatekeeper endpoints	ゲートキーパーの各登録エンドポイントのステータスを表示します。
show gateway	現在のゲートウェイのステータスを表示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。